MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

決算説明会

2027年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2026年11月6日

本日のご説明

１．決算概要と業績予想

２．事業概況と経営戦略

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

決算概要と業績予想

取締役 社長執行役員　COO & CFO
吉田　勝彦

27/3期 2Q 業績サマリー

2Qとして売上高、営業利益、当期利益等、すべて過去最高

（億円）	2026年3月期	2027年3月期		前年同期比		前四半期比	
	2Q	1Q	2Q	増減	伸び率	増減	伸び率
売上高	4,114	4,266	4,642	+528	+12.8%	+376	+8.8%
営業利益	270	263	318	+48	+17.8%	+54	+20.7%
税引前利益	248	298	420*	+172	+69.5%	+122	+40.9%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	177	213	297*	+120	+67.9%	+84	+39.5%
基本的1株当たり四半期利益（円）	44.07	53.03	73.98*	+29.91	+67.9%	+20.95	+39.5%

為替レート	2026年3月期	2027年3月期	
	2Q	1Q	2Q
US$	146.33円	158.80円	160.70円
ユーロ	169.94円	184.85円	184.94円
タイバーツ	4.50円	4.91円	4.85円
人民元	20.39円	23.20円	23.75円

* 特殊要因含む

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

27/3期 上半期 業績サマリー

上半期の売上高、営業利益、当期利益等、すべて過去最高

（億円）	2026年3月期 上半期	2027年3月期 上半期	前年同期比 増減	前年同期比 伸び率	2027年3月期 上半期（前回予想）
売上高	7,783	8,908	+1,124	+14.5%	8,465
営業利益	444	581	+137	+30.8%	530
税引前利益	404	718*	+314	+77.9%	550
親会社の所有者に帰属する当期利益	286	510*	+224	+78.4%	405
基本的1株当たり当期利益（円）	71.18	127.01*	+55.83	+78.4%	100.85

為替レート	2026年3月期 上半期	2027年3月期 上半期
US$	146.25円	159.75円
ユーロ	165.98円	184.90円
タイバーツ	4.43円	4.88円
人民元	20.27円	23.48円

* 特殊要因含む

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

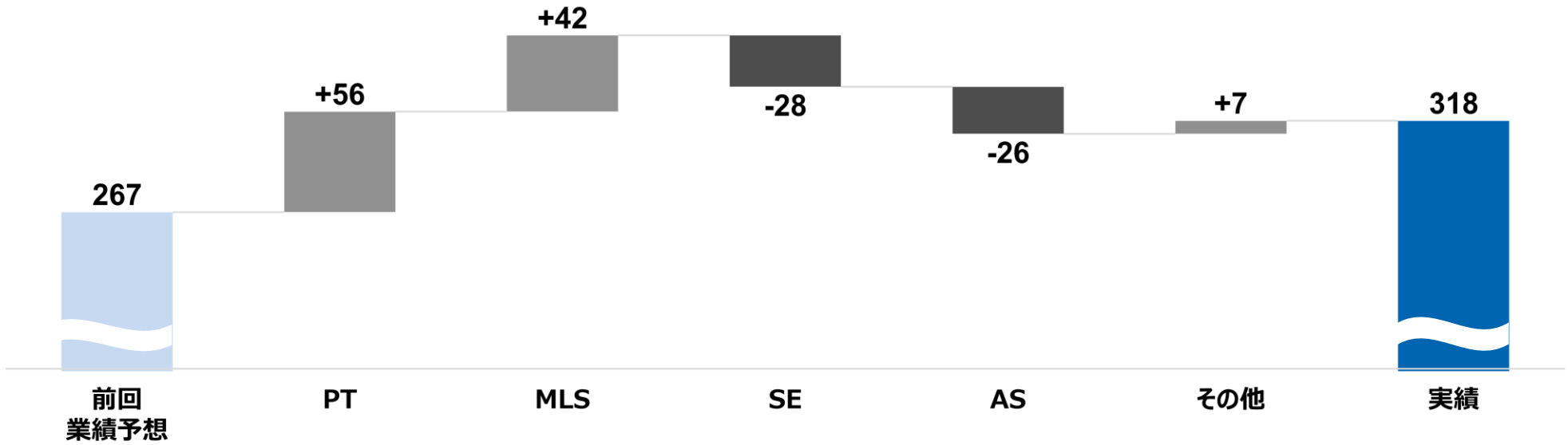
2Q実績　前回予想（2026年8月5日）からの差異

（億円）

売上高

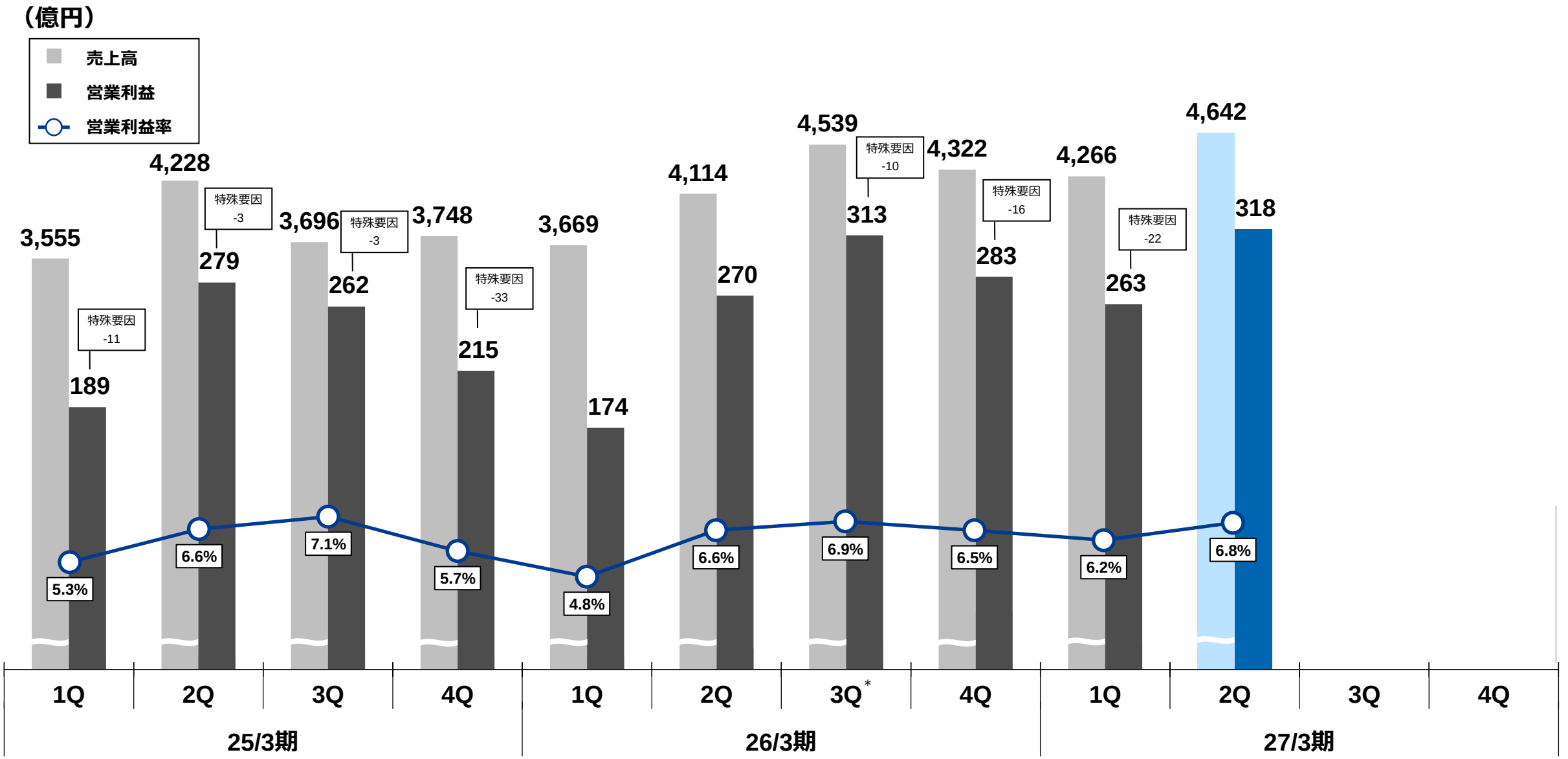


営業利益



MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

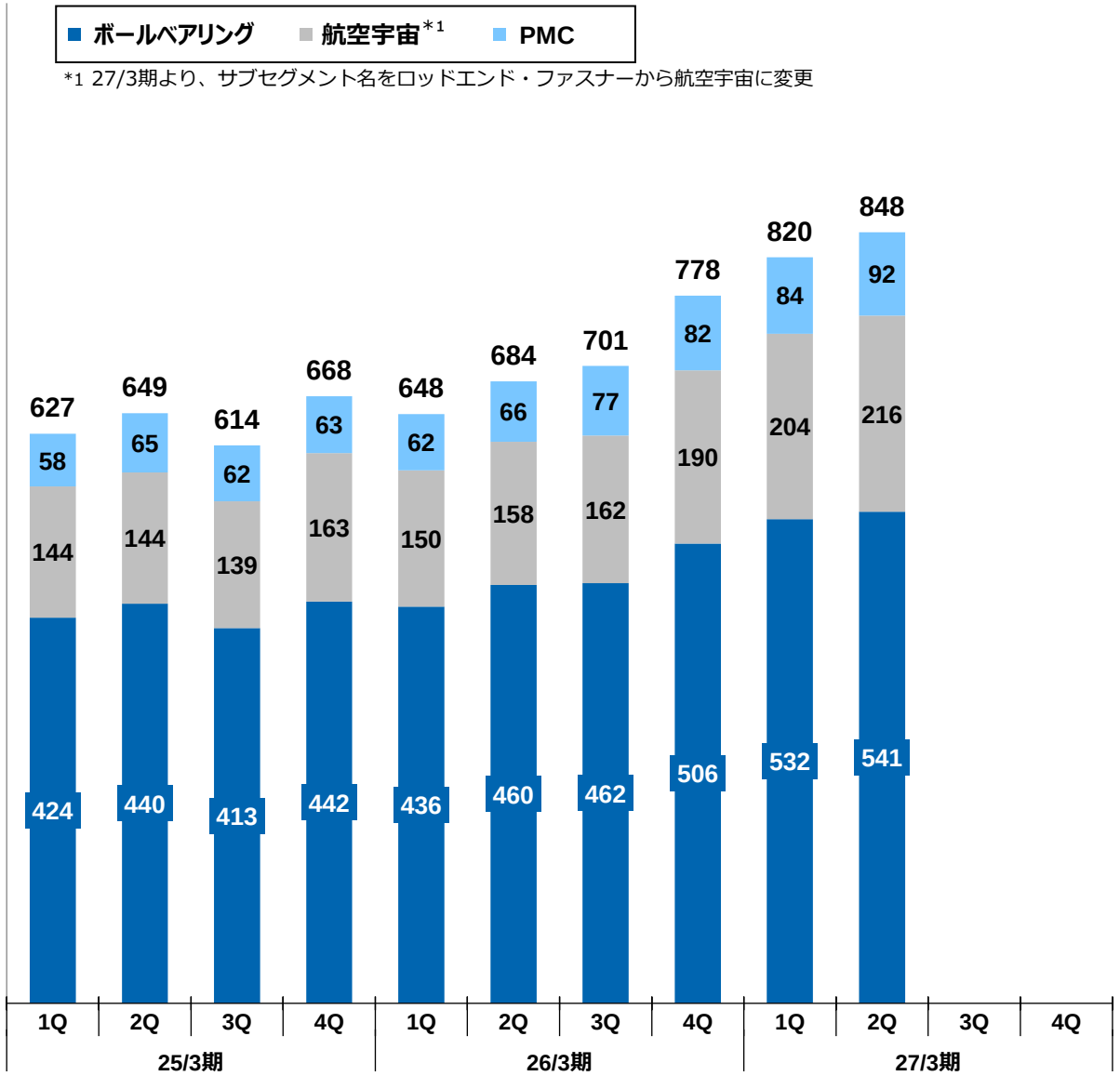
売上高、営業利益、営業利益率の四半期推移



＊ ミネベアリニアモーションのPPA評価完了に伴い、2026年3月期第3四半期の営業利益を遡及修正

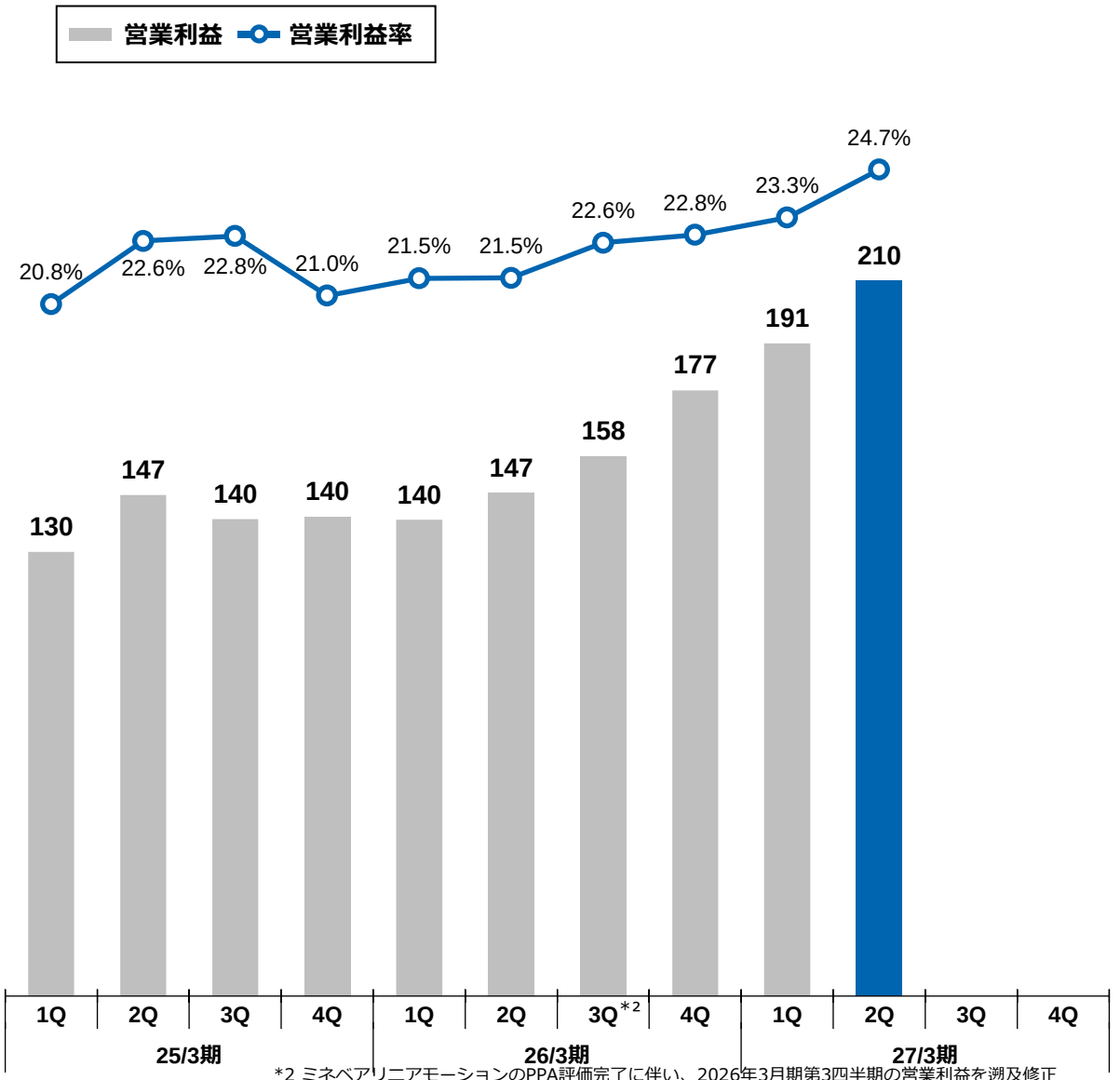
プレシジョンテクノロジーズ セグメント（PT）の四半期推移

売上高（億円）



*1 27/3期より、サブセグメント名をロッドエンド・ファスナーから航空宇宙に変更

営業利益（億円）



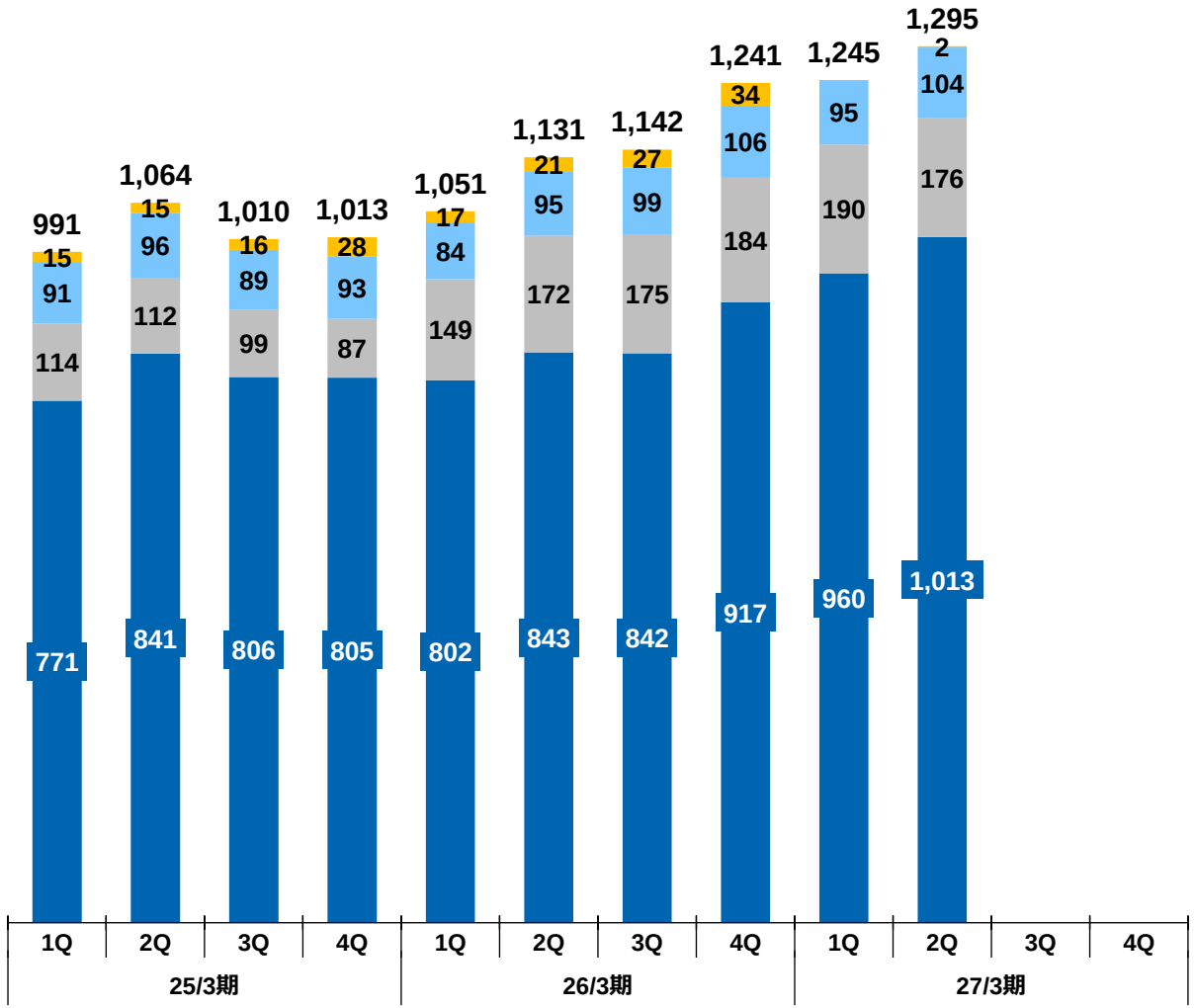
*2 ミネベアリニアモーションのPPA評価完了に伴い、2026年3月期第3四半期の営業利益を遡及修正
*3 過年度実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

モーター・ライティング&センシング セグメント（MLS）の四半期推移

売上高（億円）

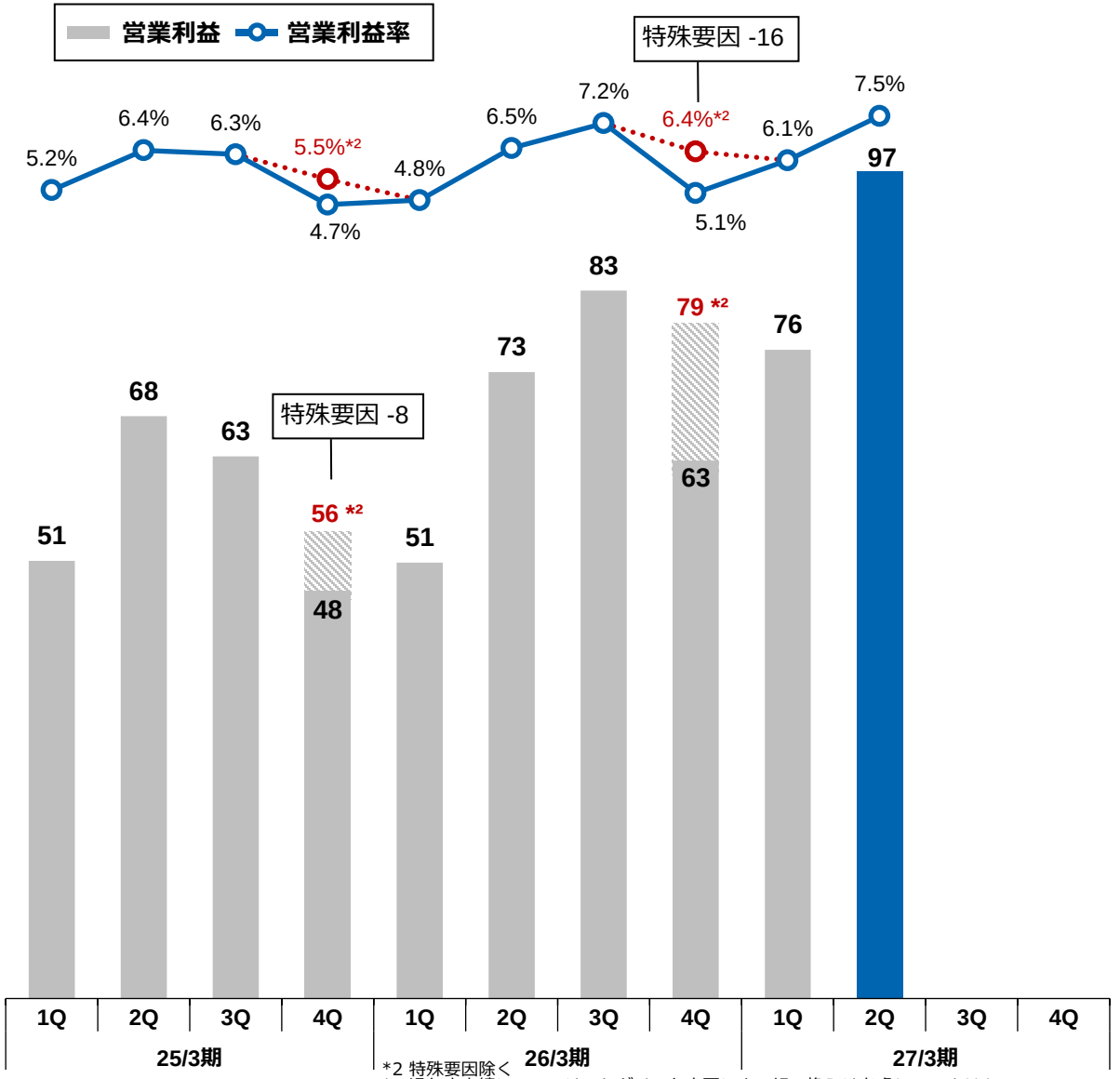
■ モーター　■ エレクトロデバイス　■ センシングデバイス　■ その他 *1

*1 27/3期より、MLSのサブセグメントのその他に属していた航空機等大型加工製品をPTの航空宇宙に移管



営業利益（億円）

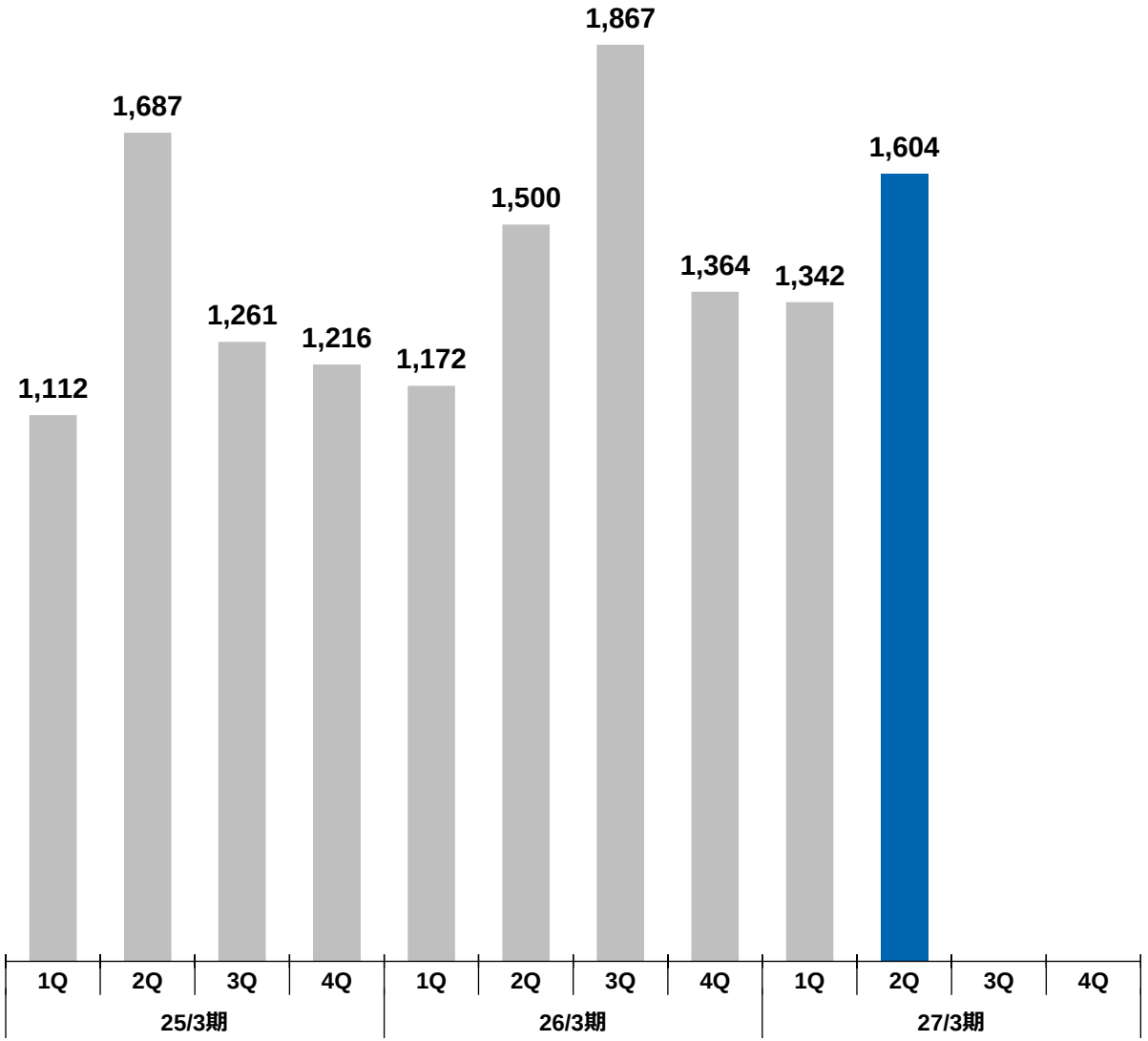
■ 営業利益　● 営業利益率



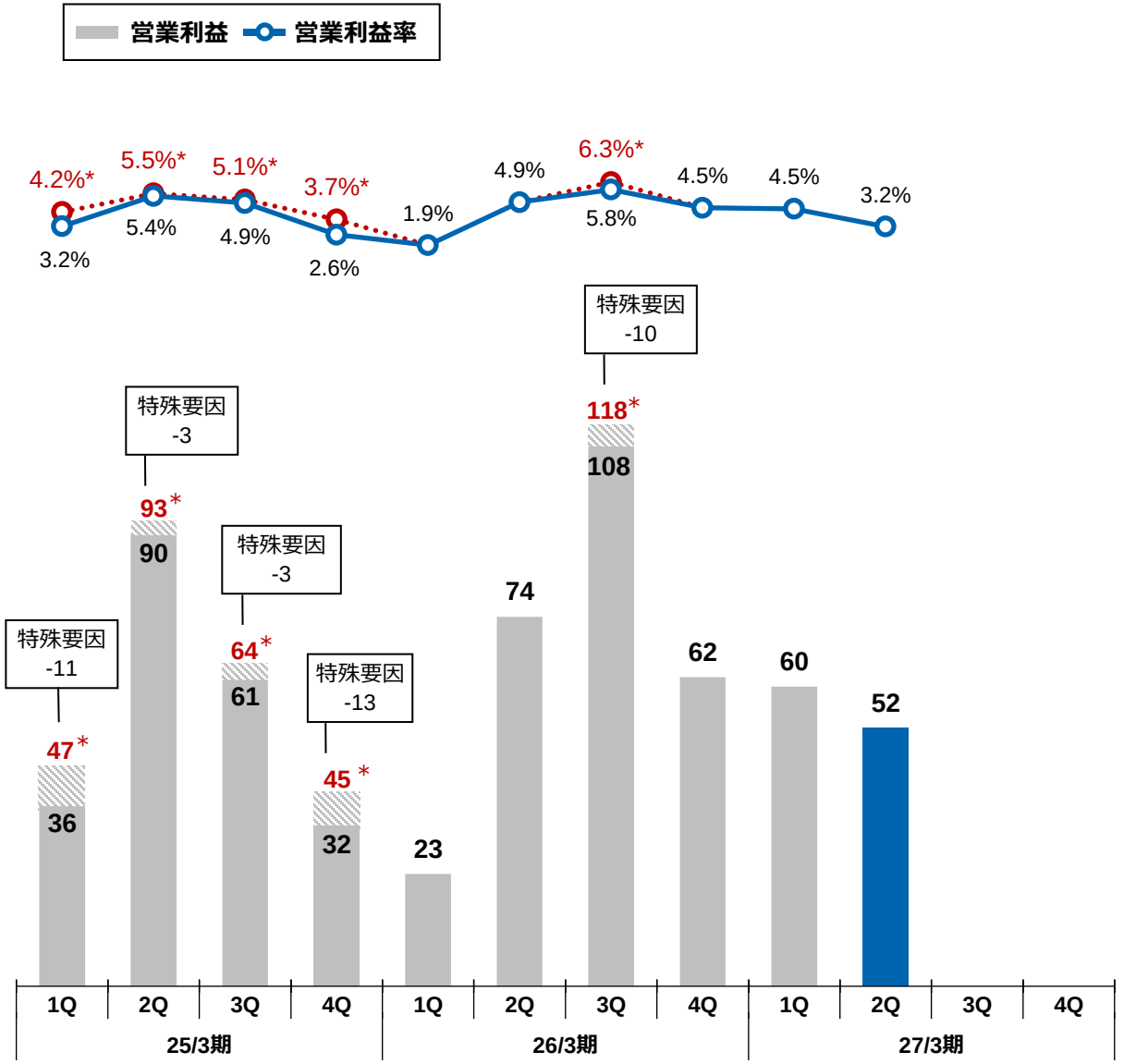
*2 特殊要因除く
*3 過年度実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント（SE）の四半期推移

売上高（億円）



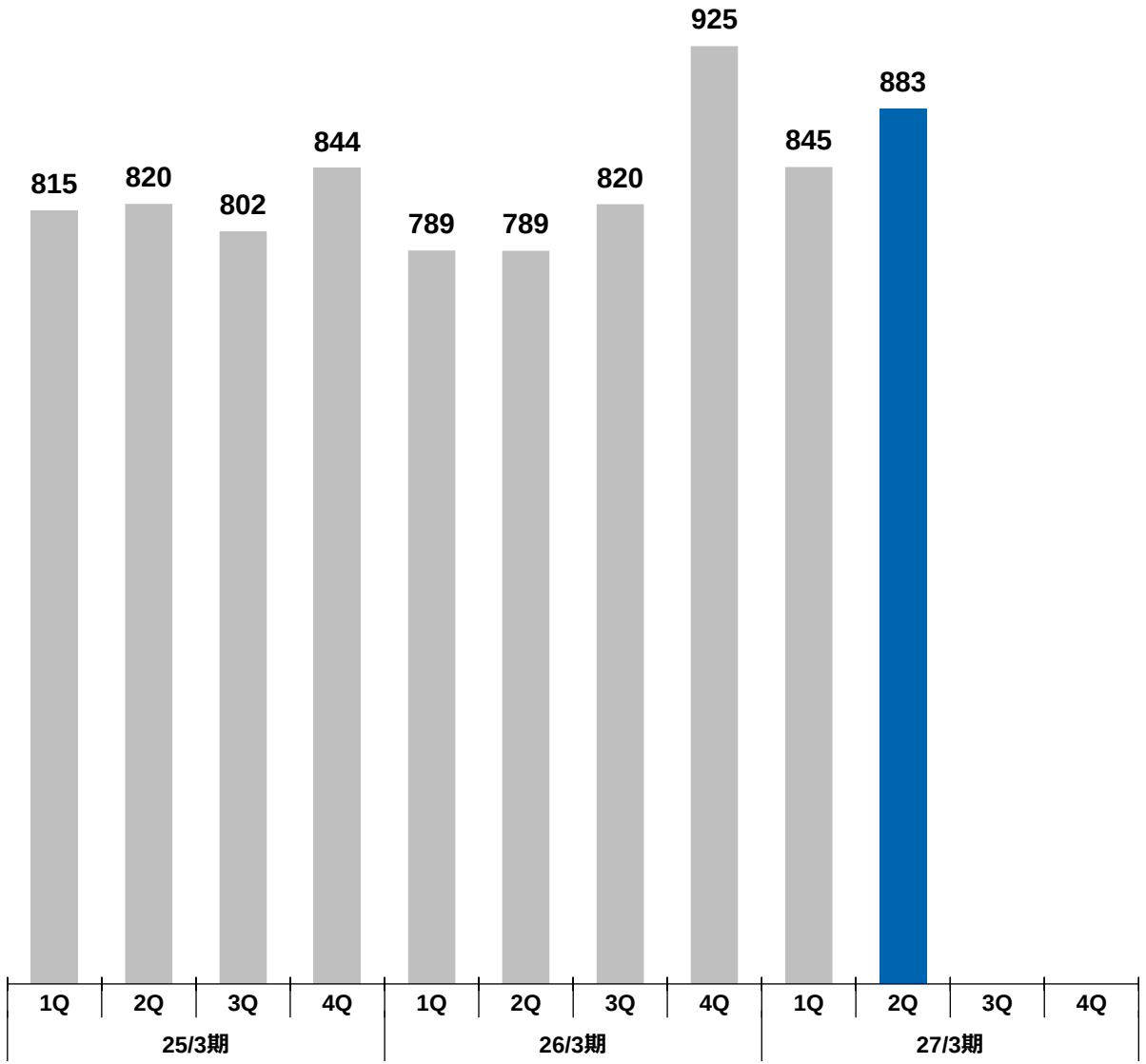
営業利益（億円）



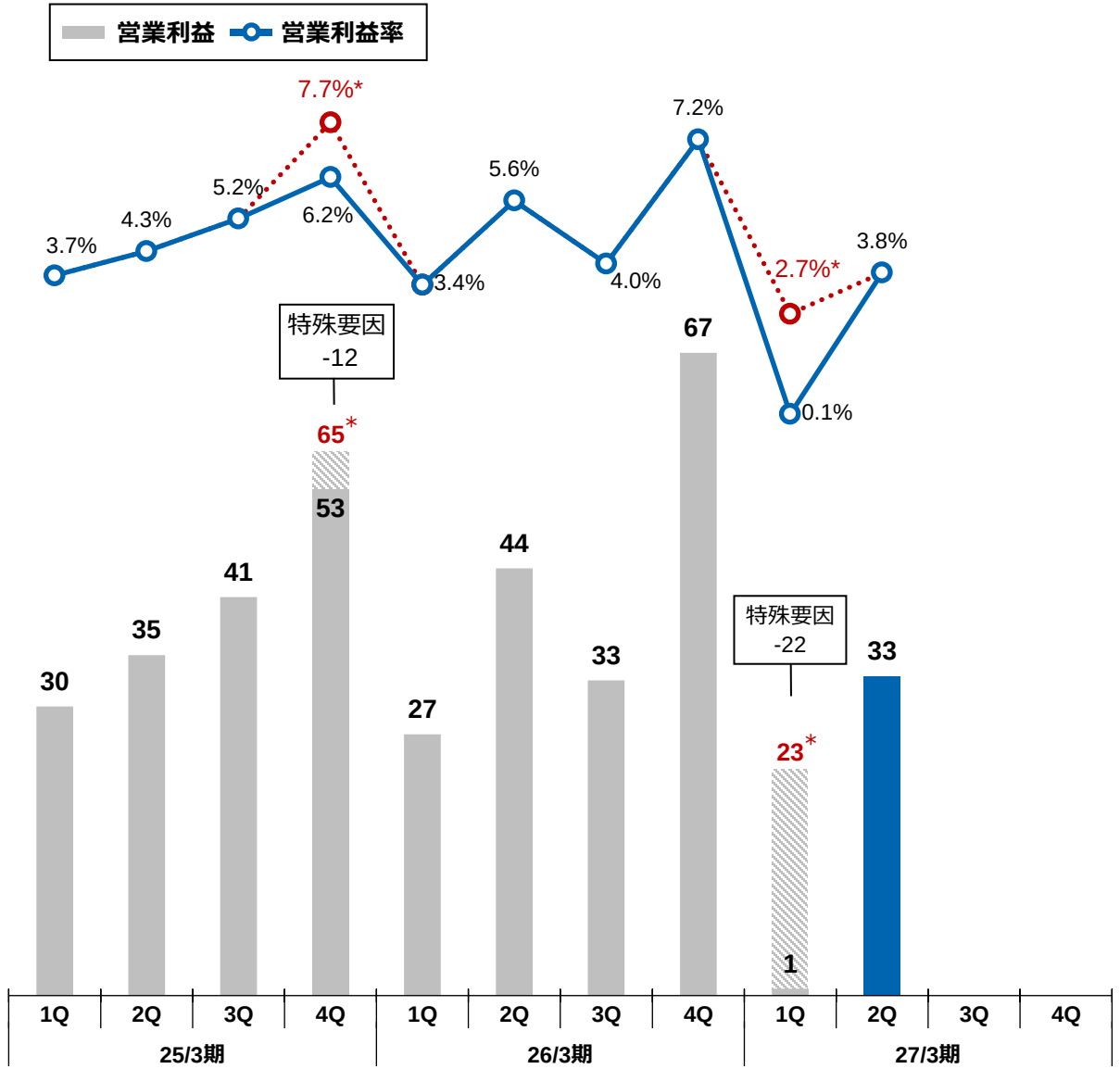
＊ 特殊要因除く

アクセスソリューションズ セグメント（AS）の四半期推移

売上高（億円）

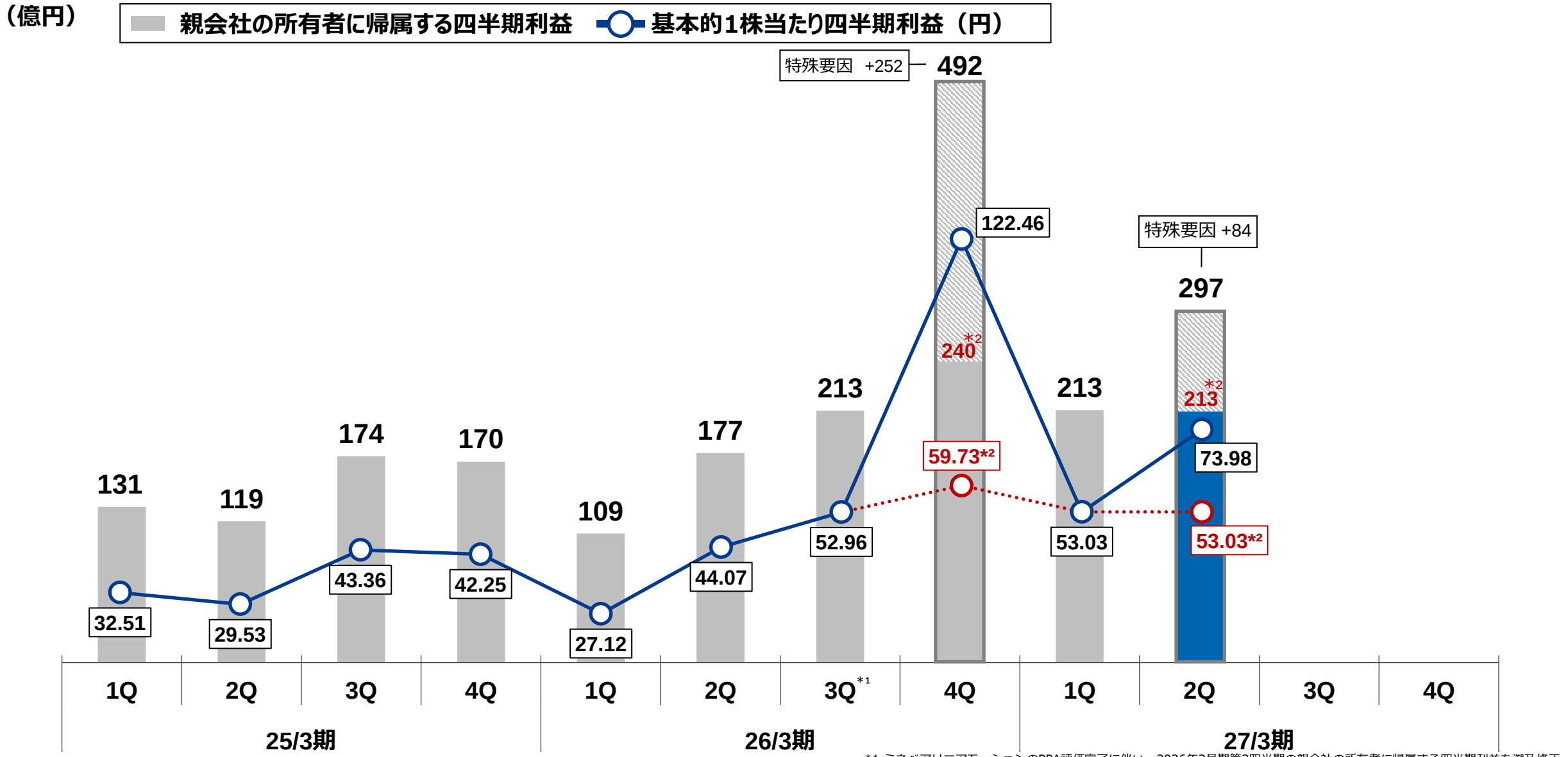


営業利益（億円）



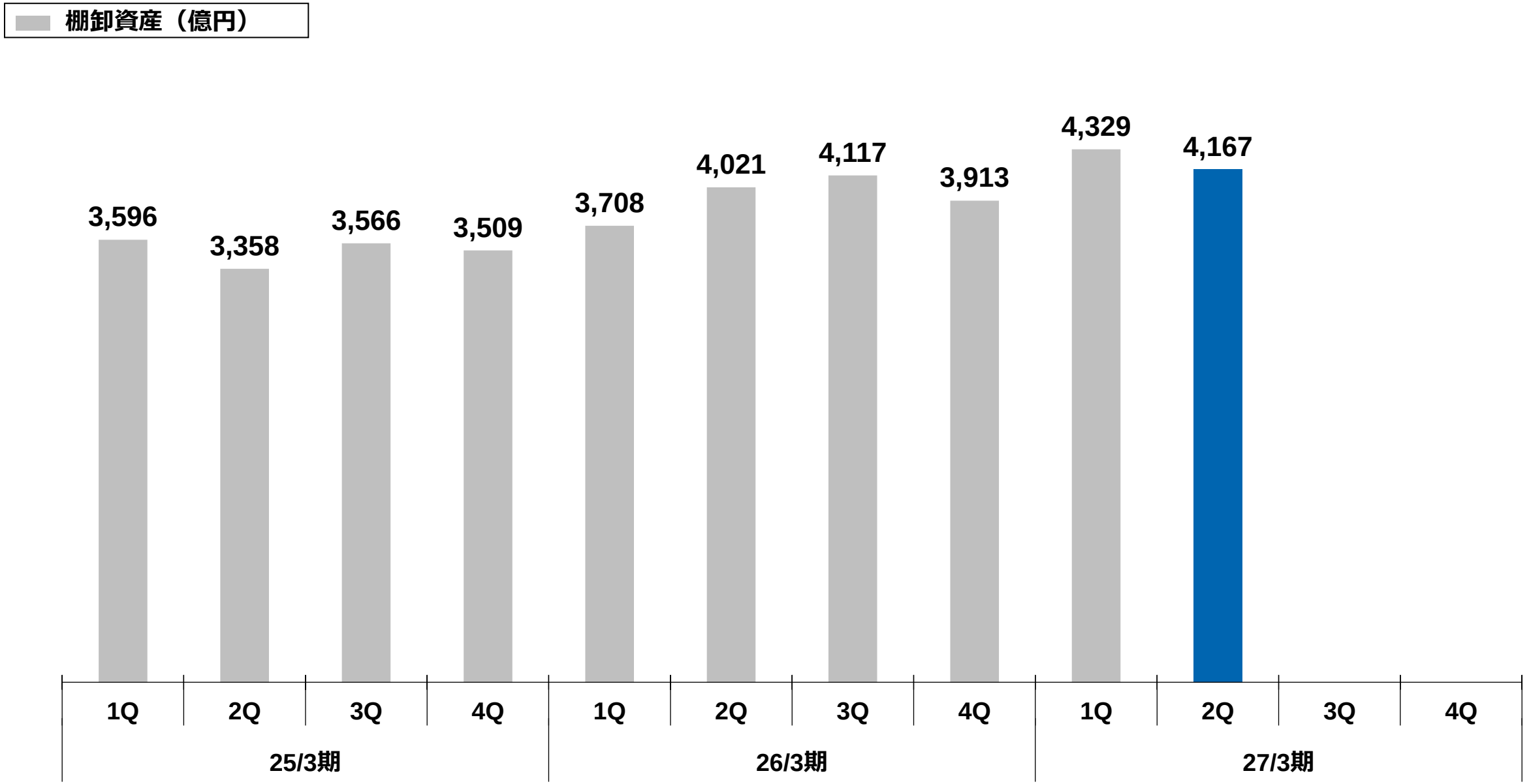
＊ 特殊要因除く

親会社の所有者に帰属する四半期利益 / EPSの四半期推移

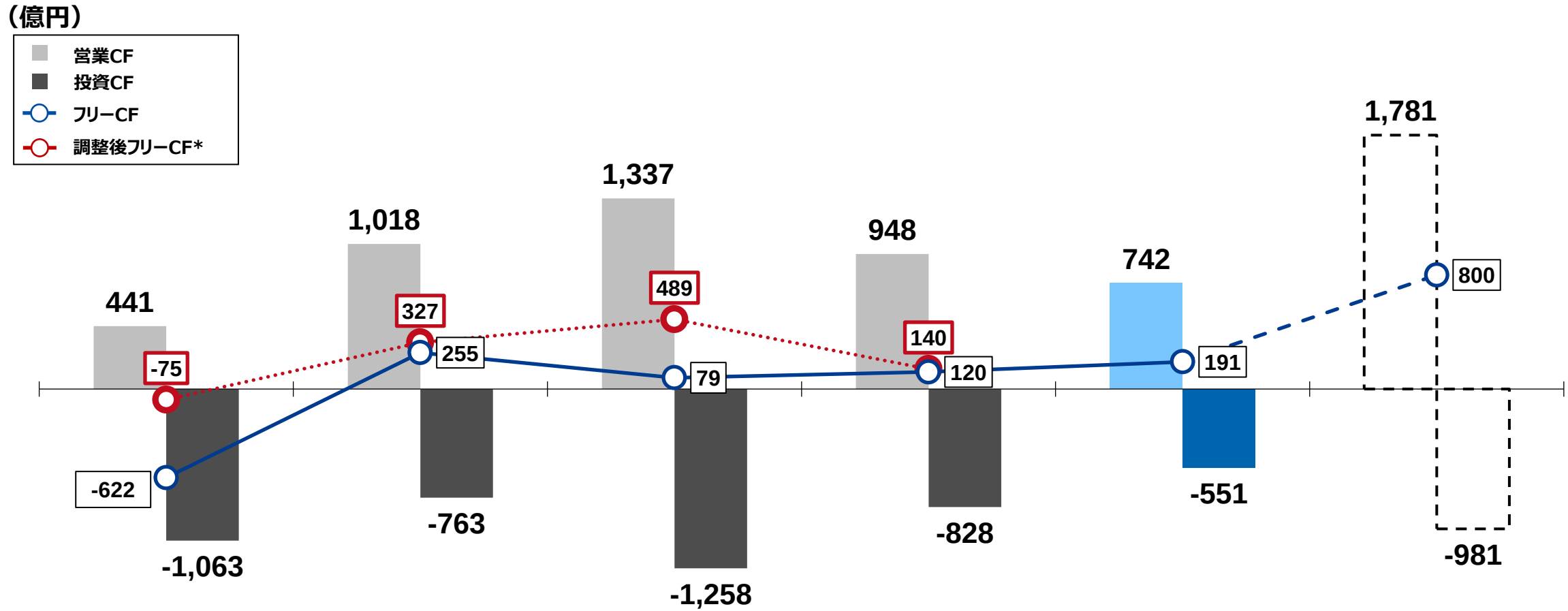


*1 ミネベアリニアモーションのPPA評価完了に伴い、2026年3月期第3四半期の親会社の所有者に帰属する四半期利益を遡及修正
*2 特殊要因除く

棚卸資産


棚卸資産（億円）
3,596
3,358
3,566
3,509
3,708
4,021
4,117
3,913
4,329
4,167
1Q
2Q
3Q
4Q
1Q
2Q
3Q
4Q
1Q
2Q
3Q
4Q
25/3期
26/3期
27/3期

営業CF、投資CF、フリーCF、調整後フリーCFの年次推移



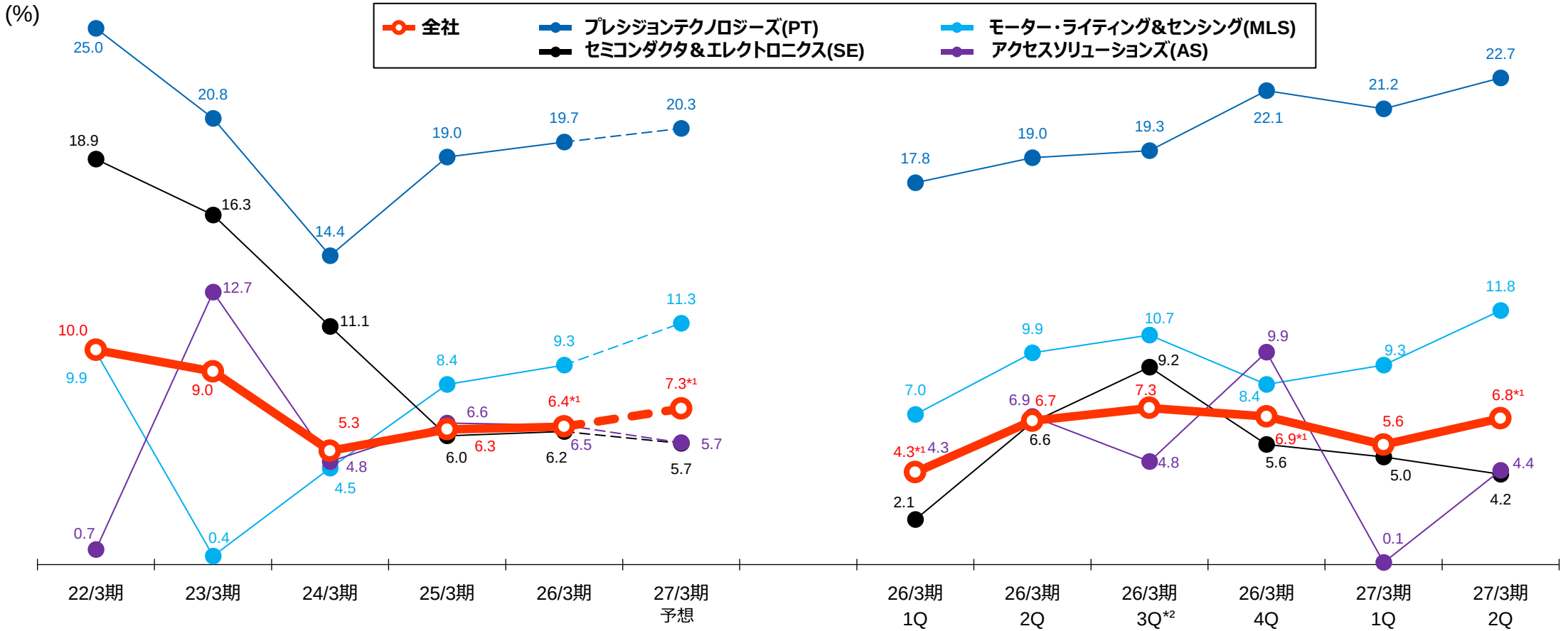
	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期 1H	27/3期 予想
調整額（億円）	547	72	410	20	–	–
主な一過性要因	東京本部ビル購入 M&A（本多通信工業／住鉱テック／ホンダロック）	M&A （RO-RA）	M&A （日立パワーデバイス）	M&A （ツバキ・ナカシマ ボールねじ及びボールウェイ事業）	–	–

＊ 調整後フリーCF：フリーキャッシュフローからM&A支出や有価証券売却などの一過性要因を除いたもの

ROIC（投下資本利益率）の年次推移／四半期推移

ミネベアミツミ版 ROIC = **NOPAT**（営業利益 ×（1－税率））／**投下資本**（受取手形･売掛金＋棚卸資産＋固定資産－支払手形･買掛金）

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権･仕入債務、棚卸資産、固定資産）で算出



*1 特殊要因除く
*2 ミネベアリニアモーションのPPA評価完了に伴い、2026年3月期第3四半期の営業利益を遡及修正
*3 2026年3月期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません

27/3期 業績予想

売上高、営業利益を上方修正

（億円）	2026年3月期	2027年3月期			前期比		2027年3月期
	通期	上半期	下半期	通期	増減	伸び率	通期(前回予想)
売上高	16,644	8,908	8,392	17,300	+656	+3.9%	16,900
営業利益	1,040 *1	581	699	1,280	+240	+23.1%	1,200
税引前利益	1,338 *2	718 *2	662	1,380 *2	+42	+3.2%	1,180
親会社の所有者に帰属する当期利益	990 *2	510 *2	490	1,000 *2	+10	+1.0%	870
基本的1株当たり当期利益（円）	246.60 *2	127.01 *2	122.00	249.01 *2	+2.41	+1.0%	216.64

為替レート	2026年3月期 通期	2027年3月期 下半期想定
US$	149.99円	155.00円
ユーロ	172.92円	175.00円
タイバーツ	4.63円	4.65円
人民元	21.05円	23.00円

*1 26億円程度の構造改革費用が含まれています
*2 特殊要因含む

27/3期 セグメント別業績予想

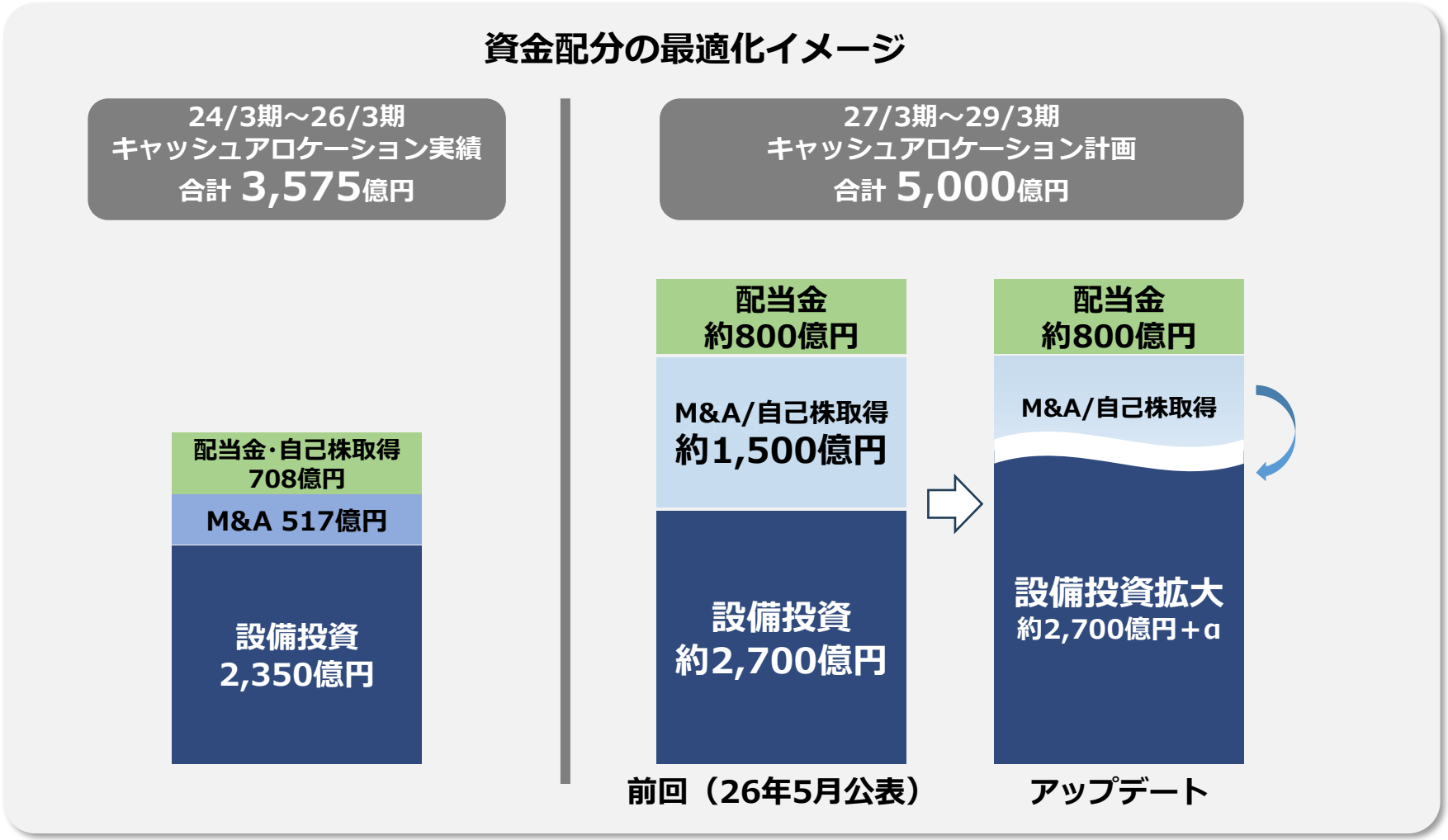
（億円）	2026年3月期	2027年3月期			前期比		2027年3月期
	通期	上半期	下半期	通期	増減	伸び率	通期(前回予想)
売上高	16,644	8,908	8,392	17,300	656	+3.9%	16,900
プレシジョンテクノロジーズ	2,812	1,668	1,682	3,350	538	+19.2%	3,130
モーター・ライティング＆センシング	4,565	2,540	2,510	5,050	485	+10.6%	4,920
セミコンダクタ＆エレクトロニクス	5,903	2,946	2,404	5,350	-553	-9.4%	5,300
アクセスソリューションズ	3,322	1,728	1,772	3,500	178	+5.3%	3,500
その他	42	25	25	50	8	+18.8%	50
営業利益	1,040 *1	581	699	1,280	240	+23.1%	1,200
プレシジョンテクノロジーズ	622	401	399	800	178	+28.5%	700
モーター・ライティング＆センシング	269	172	188	360	91	+33.7%	310
セミコンダクタ＆エレクトロニクス	267	112	138	250	-17	-6.3%	280
アクセスソリューションズ	171	34	131	165	-6	-3.4%	185
その他・調整額	-290	-138	-157	-295	-	-	-275

*1 26億円程度の構造改革費用が含まれています
*2 2026年3月期通期実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

中期キャッシュアロケーション計画のアップデート

オーガニック成長の大きなポテンシャルを見据え、設備投資枠を拡大

成長の5分野+1を支える設備投資に集中しつつ、安定配当を堅持



MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

事業概況と経営戦略

2026年11月6日

Business Update & Management Strategy

代表取締役 会長 CEO

貝沼 由久



上半期のポイント

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

上半期の売上高・営業利益・当期利益は過去最高。通期業績予想を上方修正

全体	● PT、MLSが成長を牽引。自動車業界・ゲーム等の減速をカバー ● 成長の5分野＋1の新領域の需要が着実に拡大 ● 実質営業利益率は通期8.7%へ
プレシジョン テクノロジーズ(PT)	● 上半期のセグメント売上高・営業利益は過去最高を更新中 通期営業利益800億円が視野に ● ベアリングに加え、航空宇宙事業も過去最高の売上・利益
モーター・ライティング＆センシング(MLS)	● モーターは高付加価値製品増加によりミックス改善。エレクトロデバイスは堅調。センシングの構造改革も寄与し全体の収益性改善進む
セミコンダクタ＆エレクトロニクス(SE)	● 半導体は中長期の成長に向けた基盤構築が着実に進捗 ● 光デバイスのピークは2Qから3Qにずれるも、通期は想定通り
アクセス ソリューションズ(AS)	● 中国、欧州で自動車市場減速の影響を受けるが、日本、アジア、北米は堅調。二輪、産機も堅調を維持

27/3期 業績予想

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

通期業績予想を売上高1兆7,300億円、営業利益1,280億円に上方修正

業績予想のポイント

- 下半期は季節性により減収増益を予想
- 成長の5分野+1を中心に好調継続を見込み、通期の売上高・営業利益・当期利益は過去最高を更新
- 東芝株評価により、当期利益も過去最高更新を見込む。成長投資の将来原資へ

(億円)	2026年3月期			2027年3月期						27/3期
	1H 実績	2H 実績	通期 実績	1H 実績	前期比	2H 予想	前期比	通期 予想	前期比	前回 予想
売上高	7,783	8,861	16,644	8,908	+14.5%	8,392	-5.3%	17,300	+3.9%	16,900
営業利益	444	596	1,040	581	+30.8%	699	+17.4%	1,280	+23.1%	1,200
営業利益率	5.7%	6.7%	6.2%	6.5%	+0.8pt	8.3%	+1.6pt	7.4%	+1.2pt	7.1%
実質営業利益率	6.8%	8.2%	7.5%	7.8%	+1.0pt	9.6%	+1.4pt	8.7%	+1.2pt	8.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (特殊要因除く)	286	704 (452)	990 (738)	510 (426)	+78.4% (+49.0%)	490	-30.5% (+8.3%)	1,000 (916)	+1.0% (+24.0%)	870
基本的１株当たり 当期利益(円) (特殊要因除く)	71.18	175.42 (112.69)	246.60 (183.87)	127.01 (106.06)	+78.4% (+49.0%)	122.00	-30.5% (+8.3%)	249.01 (228.06)	+1.0% (+24.0%)	216.64

※( )内の数値は、東芝株式の評価損益を除いた金額です。会計上の当期利益は、東芝株の評価変動によって中間・期末で変動する可能性があることに留意ください。
なお、東芝株の評価を除いた当期利益ベースでも、過去最高を予想しています。

プレシジョンテクノロジーズ（PT）の状況

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

データセンター向け需要と航空宇宙事業の好調を背景に 通期営業利益は800億円が視野に

主なポイント

1 ベアリング

- データセンター向けを中心に旺盛な需要が継続し、高水準の稼働率を維持
- 2Q平均生産数量 (3.7億個/月)は過去最高を更新。最大生産能力(4.04億個/月)を目標に、全生産ライン稼働時間向上策を実施。切り替え時間の短縮等も推進
- 価格に関しては、市場シェアの維持・拡大が最優先

2 航空宇宙

- LTA（長期契約）の更改に伴う価格改定効果も寄与し、下期以降も極めて堅調な利益成長を見込む
- 航空機需要の拡大が続く中、ビルドレート増へ

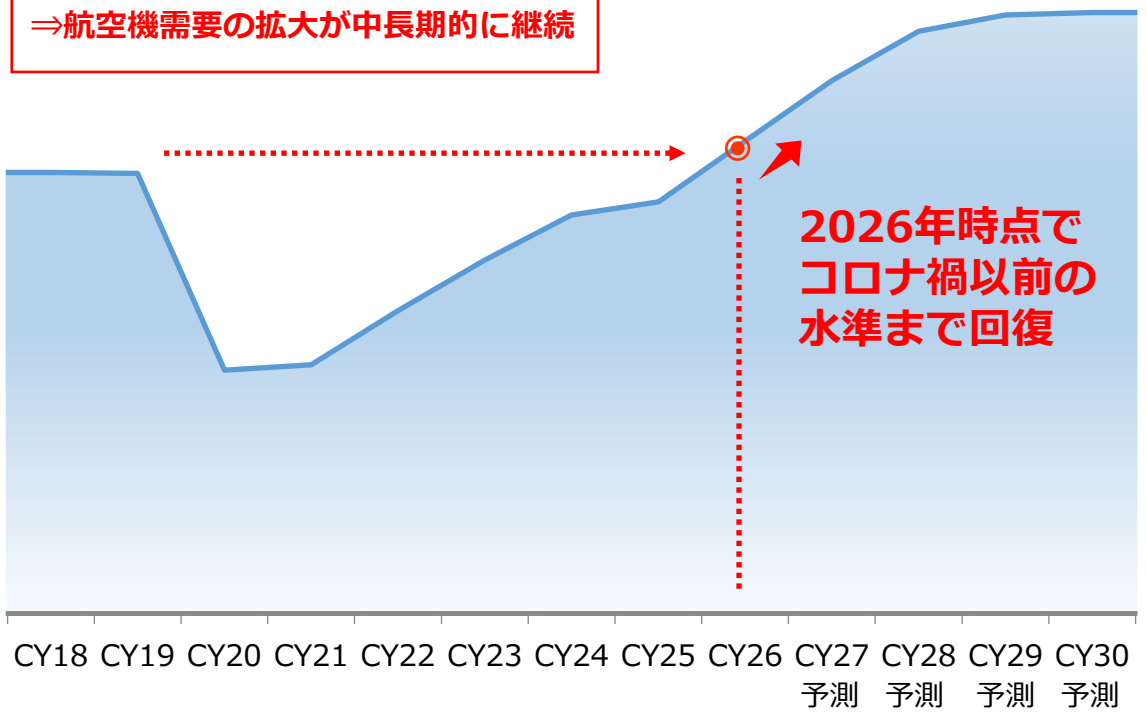
3 PMC

- HDD向け需要は底堅く推移し、数量増へ
- 原材料費の上昇に対する価格転嫁が着実に進展

民間航空機 生産レート実績/予測（当社調べ）

外部環境
- **コロナ禍からの旅客需要の回復**
- **原油高を背景に低燃費の新型機への更新需要が拡大**

⇒航空機需要の拡大が中長期的に継続



モーター・ライティング&センシング （MLS）の状況

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

AIサーバーの需要拡大により、モーター・バッテリー保護モジュールが好調
センシングはヒューマノイドロボットの引き合い増加

主なポイント

1 モーター

- AIサーバー需要を追い風に、ファンモーターや水冷システムのバルブ開閉向けステッピングモーター、ならびにHDD向けスピンドルモーターが好調
- 高付加価値製品へのシフトにより製品ミックスが改善し、収益性が向上

2 エレクトロデバイス

- AIサーバー市場の拡大に伴い、BBU向けバッテリー保護モジュールが好調に推移し、計画対比で上振れ
- さらなる供給力強化に向け、2027年2月よりメキシコ工場にて新規生産を開始

3 センシングデバイス

- 構造改革の効果により、収益性が向上
- ヒューマノイドロボット向けではひずみゲージ薄膜銅合金センサー「ミネージュ」および関節用トルクセンサー等の拡販により引き合いが増加

サーバー向けモーターの生産体制について

- 新たにカンボジア工場で生産能力を拡張
  既存工場を含めた**複数拠点での生産体制を確立**
- 生産能力増強を実施し**十分なキャパシティを確保**
  今後さらなる拡大が見込まれる需要にも確実に対応

＜サーバー向けモーターの主要生産拠点＞








ファンモーター


ステッピングモーター
（バルブ開閉向け）


スピンドルモーター
（HDD向け）

M&Aによるモーター事業の強化施策

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

パナソニック インダストリー社からの事業譲受
事業承継後の取引安定性を万全なものとするためクロージングを27年3月に延期

統合によるシナジー

1 技術・専門人材の獲得と製品ラインナップの拡充

- パナソニック社が長年培ったモーター関連の技術者ならびに生産技術者を獲得
- 高信頼性ブラシ、高出力モーターの技術補完や、独自の「流体軸受技術」を用いたファンモーターをラインナップに追加し製品群を強化

2 新規顧客・未参入市場への展開

当社の車載モーターラインナップにおける、サーマルマネジメント領域の更なる拡充と、当社未参入のTier1顧客などの新たな顧客基盤の取り込み

3 モーター事業の強化と新たな価値の創出

双方のモーター知見を融合し競争力を強化。当社「8本槍」技術との「相合」により、次世代の社会ニーズに応える高付加価値ソリューションを創出

取得事業の概要

対象事業	パナソニック インダストリー社の**車載モーター事業**および**車載用冷却ファンモーター**事業
売上規模	約320億円（2025年3月期）
買収の目的	• 当社のコア製品「8本槍」の主力であるモーター事業の強化 • 注力分野である車載モーターの強化
譲受スキーム	• 日本拠点は吸収分割後の新会社株式譲受 • フィリピン拠点は株式譲受 • 中国（厦門・珠海）は上記対象事業を事業譲受
スケジュール	2026年5月13日 最終契約締結 2026年11月2日 譲受完了予定 ⇒ **(延期)2027年3月1日予定** 【延期理由】新体制への移行に伴う受発注や契約関係の整理・調整、ならびに業務プロセスの整備等の移行準備をより丁寧に進め、本件商流切替後の取引安定性を万全なものとするため

製品イメージ


電池冷却ブロワ


ラジエータ冷却用モーター


ブレーキ用モーター


流体軸受ファン

セミコンダクタ&エレクトロニクス（SE）の状況

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

半導体は中長期の成長に向けた基盤構築が着実に進む

主なポイント

1 半導体

- 滋賀工場は予定どおり4Qの単月黒字化を見込む
- 市場で強いポジションを確保しているリチウム電池保護IC、電鉄向けIGBTなどに加え、産業向けIGBT、データセンター向け製品、医療用IC、MEMS(マイク、センサ)などが成長をドライブ
- 800V HVDC用は当社パワー半導体の参入チャンスあり 一部顧客と施策を進行中

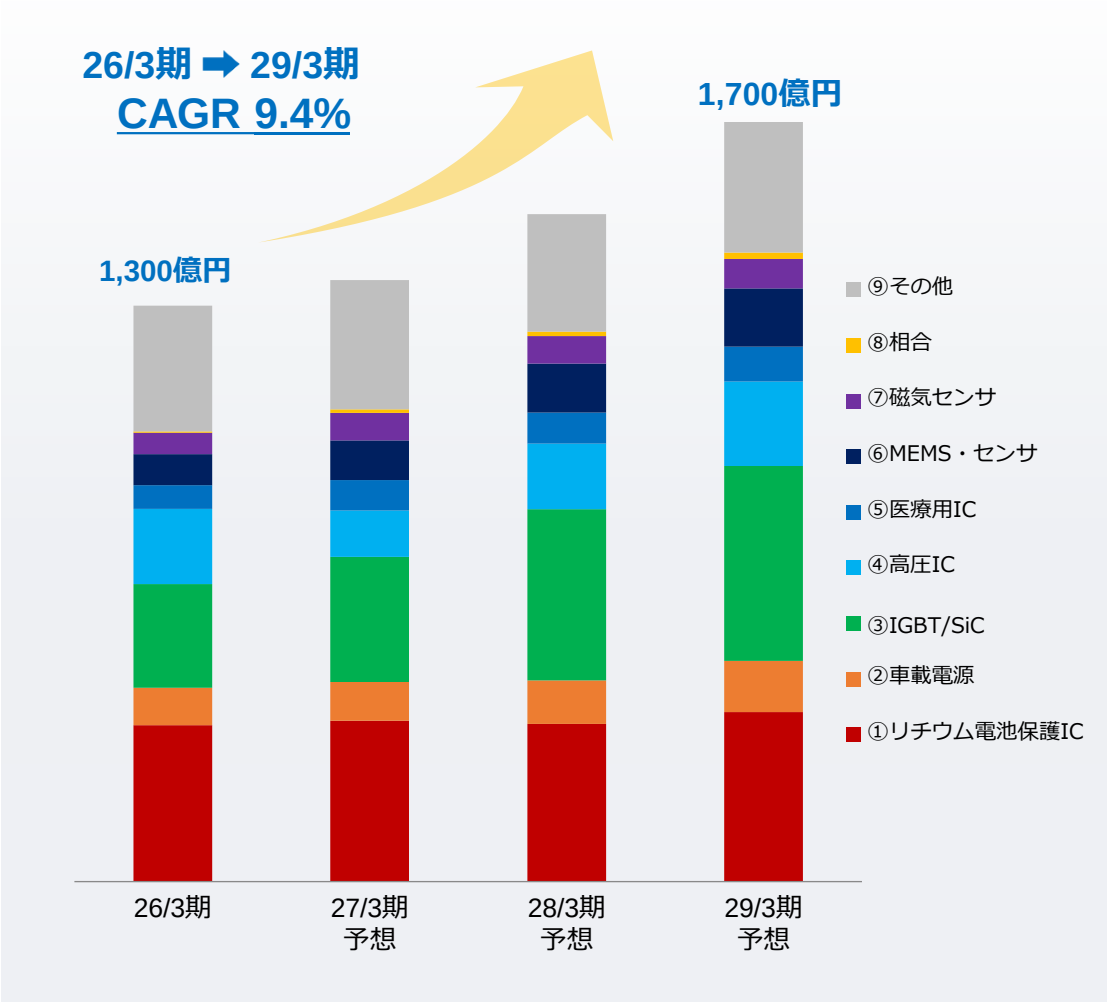
2 光デバイス

- 2Qから3Qにピークずれるも、通期は想定どおりを見込む。生産数量については注視していく

3 機構部品

- メモリなど部材価格高騰で生産性低下
- サイクルは停滞期に。需要回復のタイミングを待つ

半導体部門 売上計画



アクセスソリューションズ（AS）の状況

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

中国、欧州の減速の影響を受けるものの、北米・日本および産機は概ね堅調
BMWウィングレットの立ち上げは好調

主なポイント

1 4輪向けビジネス

- 中国の市場低迷、欧州主要顧客の減速の影響を受けるも、北米・日本は概ね堅調
- BMWウィングレット(BMW社採用のウィングハンドル)の立ち上げ好調。
  並行してウィングレットに続く高付加価値製品の開発を加速

2 2輪・産機

- 2輪･産機向けが好調。2輪はASEAN･南米での需要拡大が牽引
- 産業機械はコメ増産に伴う実需増を背景に高収益を維持し、市況変動下でも利益を下支え

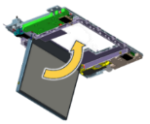
AS事業の相合による新技術・新用途

車内ディスプレイ可動用アクチュエーター

- 車載電装製品 × ベアリングの相合により、インキャビン（車室内）ディスプレイの電動制御（開閉収納・角度調整）を可能にすることで、高付加価値なUXを提供

(量産開発フェーズ)





リアシートディスプレイ
アクチュエーター

×



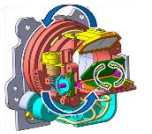
ベアリング

車載ヘッドライト用アクチュエーター

- 車載電装製品 × モータの相合により、市場初の2方向作動による高精度な路面・壁面プロジェクションを実現することで、高付加価値なUXを提供

(量産開発フェーズ)





ヘッドランプ DLP アクチュエーター
（デジタル光処理）

×



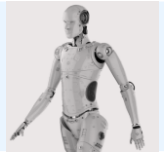
モーター

成長の5分野+1

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

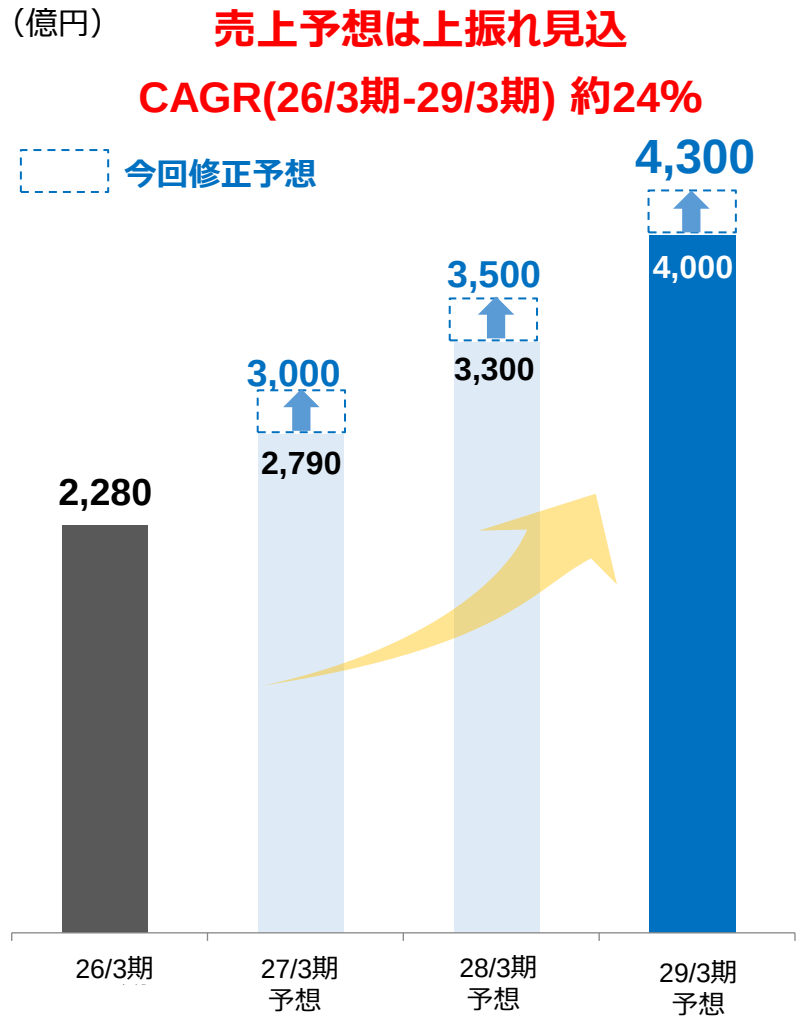
AIサーバー、航空宇宙、ニューモビリティの需要拡大に加え、ヒューマノイド、商用ドローン、完全自動運転の実用化も進展

超精密技術による「信頼性」と圧倒的な「供給力」を強みに、高付加価値案件の獲得・シェア拡大を推進

市場		市場成長率	■最新トピックス □ニーズ
AIサーバー		CAGR（CY26-30） 約8% サーバー生産台数	■液冷化、電源800V化、光伝送化が進む □高冷却性能・省電力・高信頼性
ヒューマノイドロボット		CAGR(CY26-30) 約86% ヒューマノイドロボット出荷台数	■実用化・量産化に向けた開発が進展 □小型・軽量・高精度・高効率駆動
商用ドローン		CAGR(CY26-30) 約8% グローバル商業用ドローン生産台数	■物流・点検など商用用途が拡大 □軽量化・省電力・長時間稼働
完全自動運転(LiDAR)		CAGR(CY26-30) 約26% LiDAR(機械式)生産台数	■ロボタクシーの実証・商用化が進展 □安全性・信頼性・高精度センシング
ニューモビリティ		CAGR(CY26-30) 約6% 車載電装システムのグローバル市場	■電動化、高機能化、インフォテインメントの深化 □小型・軽量・高効率・開発力
+1 航空宇宙		CAGR(CY26-30) 約8% 主要航空機生産動向より当社推定	■航空機増産・宇宙開発が進展 □高耐久性・極限環境・燃費効率への対応

※各種市場調査をもとに当社推計

成長の５分野＋１　中期業績予想

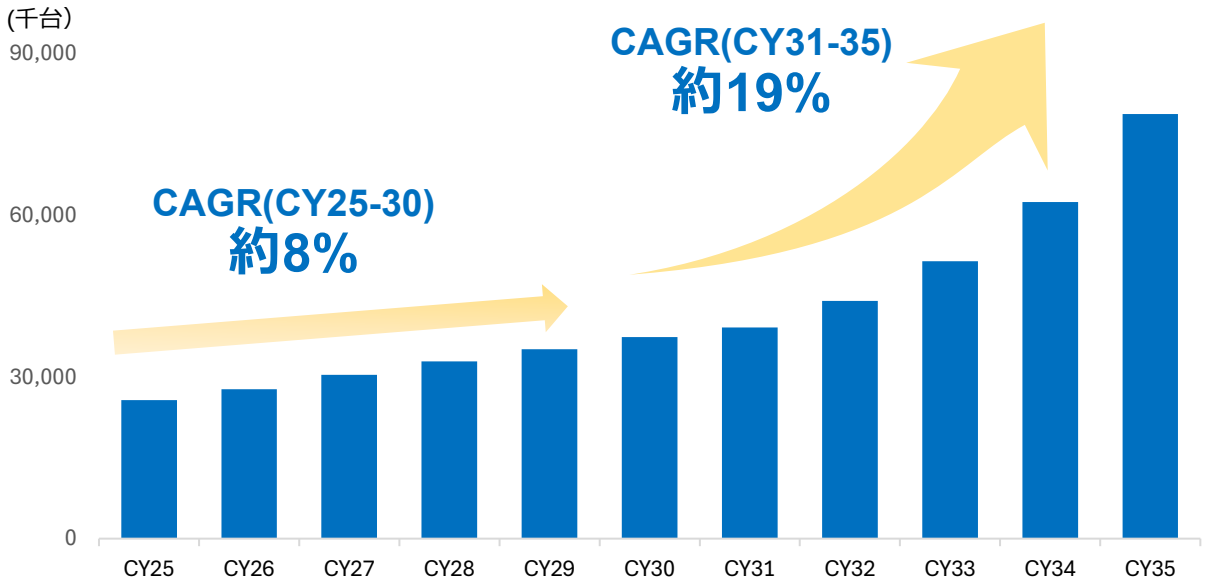


AIサーバー市場動向・売上見込

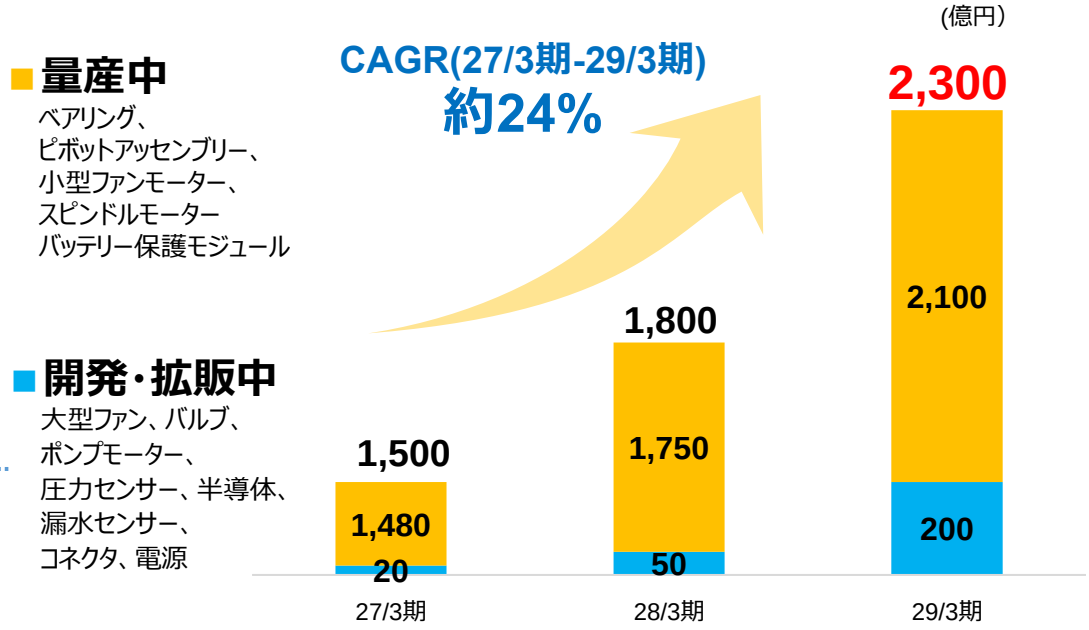
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

サーバー台数は高成長が続くと予測
当社のAIサーバー関連売上は、29/3期に2,300億円へ

市場動向　サーバー台数の推移　※各種市場調査をもとに当社推計



当社製品の売上見込



AIサーバーは液冷＋空冷のハイブリッド形式が主流
- 完全液冷は限定的
- データ増に伴い汎用サーバー(空冷)も継続成長

エッジAIデバイス需要が拡大
- クラウド一極集中から、現場(エッジ)でのデータ処理・判断へ急速移行

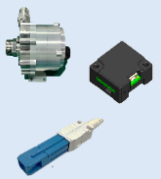
新たな市場ニーズを先取りし、製品ラインナップを拡充

AIインフラの技術シフトにより生まれる新規需要を獲得。次世代市場で売上増加を実現

①冷却の深化（水冷→冷媒液）
→小型バルブ、ポンプ、圧力センサー、ガスセンサー

②電力の高効率化（AC→DC800V配電）
→次世代パワーデバイス（Fin-SiC、V溝-SiC）

③通信の高速化（銅線→光伝送:CPO）
→シャッター付光コネクタ、CPOコネクタ



AIサーバーに対する当社の投資スタンス

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

基本方針　過剰投資を避け、既存設備の柔軟な活用と汎用性の高い製品により、市場の変動リスクに対応しつつ持続的な高収益を追求

1 規律ある設備投資

過度な先行投資は行わず、市場動向を見極めた段階的な増強を実施

- 市場拡大ペースの変動（鈍化・平坦化）に対しても柔軟に適応し、オーバーキャパシティを回避
- 新工場の立ち上げを契機に、全社的な生産拠点および生産能力の最適化も考慮にいれながら、資本効率の高い生産体制を確立

2 汎用製品の強み

当社のコア部品（ベアリング、モーター等）はAI特化ではなく、高汎用製品

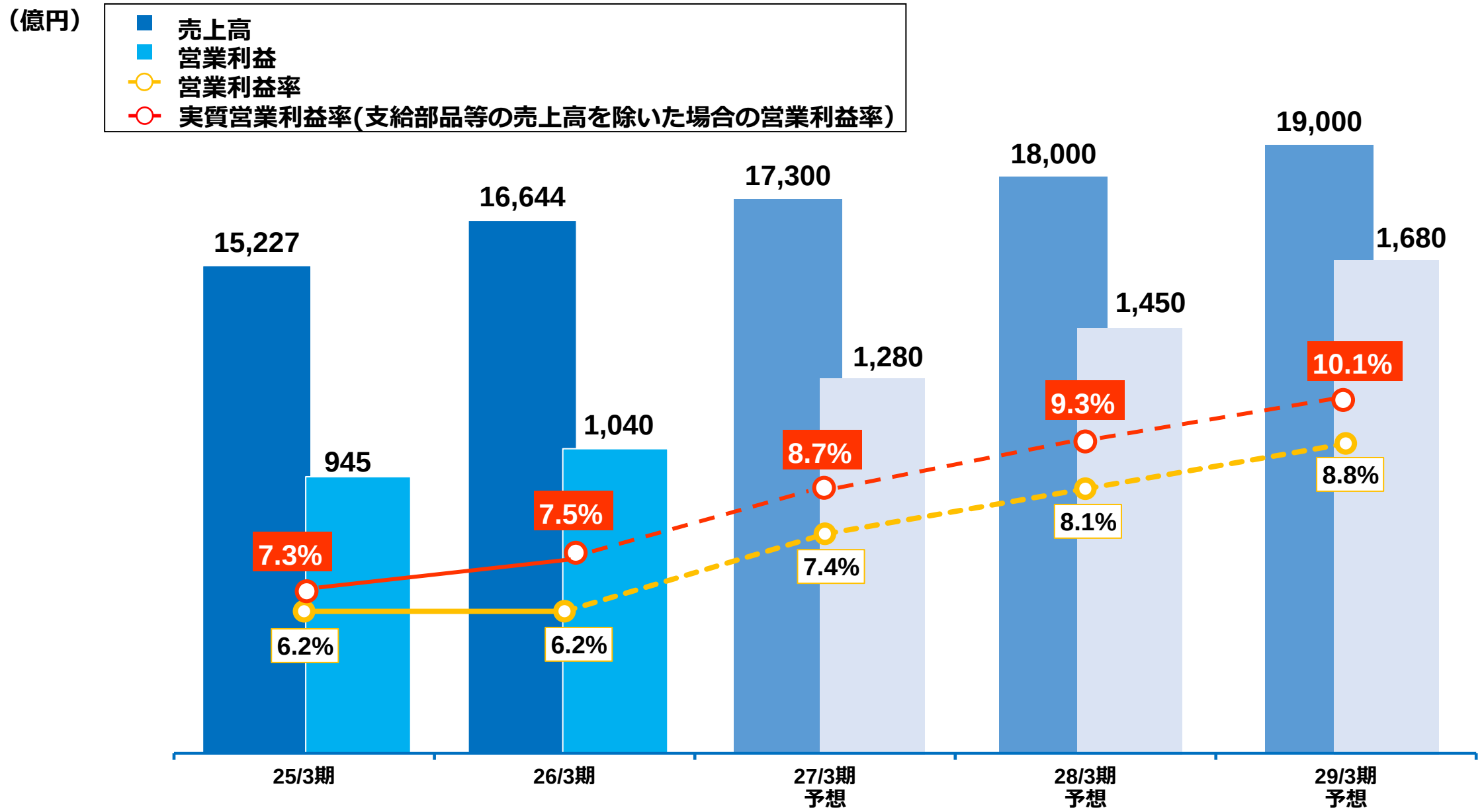
- AIサーバーに特化した巨額の設備投資は不要
- 特定顧客・用途への依存度を抑え、安定した収益基盤を維持

3 成長5分野+1による多角化

AIサーバーを牽引役としつつ、複数の成長ドライバーでポートフォリオを強化

- 商用ドローン、ヒューマノイドロボット等を含めた多角的な成長を追求
- ポートフォリオ全体で持続的なトップライン成長と高収益性を実現

実質営業利益率の推移


（億円）
売上高
営業利益
営業利益率
実質営業利益率(支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率)
15,227
945
16,644
1,040
17,300
1,280
18,000
1,450
19,000
1,680
7.3%
7.5%
8.7%
9.3%
10.1%
6.2%
6.2%
7.4%
8.1%
8.8%
25/3期
26/3期
27/3期 予想
28/3期 予想
29/3期 予想

今期は計画通り10円の増配を実施予定
なお、旺盛な需要による設備投資対応を積極的に行う

配当

	中間	期末	年間	前年度比（年間）
26/3期	25円	25円	50円	+5円
27/3期(予定)	30円	30円(予定)	60円(予定)	+10円

27/3期の年間配当は、**連結配当性向30%程度**を目安とし、
経営環境を総合的に勘案したうえで決定する方針です

自己株式取得

株主還元につきましては配当を基本としつつ、余剰キャッシュフローが生じた際には、
経営環境や株価水準を総合的に勘案し、自己株式の取得を機動的に検討してまいります

今後の生産能力増強

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

旺盛な需要を見据え、先行して生産能力を増強

米子工場（新棟）



延床面積	約6,400 ㎡
開発品目	モーター

フィリピン・セブ工場14号棟



延床面積	1階14,413 ㎡ 2階14,413 ㎡
生産品目	アナログ半導体

ドイツ・セロベア（新棟）



延床面積	約4,000 ㎡
生産品目	ベアリング (航空宇宙向け)

インド・チェンナイ工場



敷地規模	約100,000 ㎡
生産品目	• パワー半導体 • 車載モーター

上記に加え、フィリピンで新工場取得予定

成長の5分野+1の最新製品・技術を各イベントでアピール

CES2027 出展

2026年に好評を博したロボットハンドの最新モデルをはじめ、フィジカルAIの社会実装に必要不可欠な「成長の5分野＋１」の関連製品をPRします

日時：2027年1月6日(水)～9(土)

開催地：アメリカ・ラスベガス

内容：成長の5分野＋１に関する当社の機電一体の
エレクトロメカニクスソリューションズ®を紹介



**ヒューマノイドロボットの社会実装に向け、手首を含むより器用な動きを実現
大きく進化した「多指ロボットハンド」を初公開**



IR Day 2027

「成長の5分野+1」における当社製品および技術開発についてご説明いたします

日時：2027年2月22日（月）13時00分～16時00分（予定）

会場：当社 Tokyo X Tech Garden（汐留）

内容：①デモ展示見学
②プレゼンテーション・質疑応答



静岡県「エコパスタジアム」「エコパアリーナ」のネーミングライツを取得

2027年4月より「ミネベアミツミ スタジアムエコパ」「ミネベアミツミ アリーナエコパ」に

両施設のある静岡県には、40年の歴史を持ち、MLS事業の技術開発を牽引する重要拠点・浜松工場があります
同工場では、モーター、センサー(ロボットハンド用など)、BBU向けバッテリー保護モジュールなど、中長期の成長を牽引する製品の開発を担っています

本地域への戦略的投資を通じて当社の認知度を高め、県内の優秀な技術人材の獲得・定着と地域連携を強化
静岡から世界の社会課題の解決に貢献する新技術・新製品を創出し、持続的成長に向けた基盤を一層強化してまいります

（契約期間：2027年4月1日～5年間 / 年間契約金額：4,500万円 / 対象施設の年間来場者数見込：約80万人）

静岡スタジアム (新愛称：ミネベアミツミ　スタジアムエコパ)



•所在地：静岡県袋井市愛野
•収容人数：50,000人　静岡県最大のスタジアム

•サッカー・ラグビーのW杯やリーグ公式戦、スタジアムコンサートに活用。メディア露出度の高い施設

静岡アリーナ (新愛称：ミネベアミツミ　アリーナエコパ)



•所在地：静岡県袋井市愛野
•収容人数：10,000人　静岡県内最大規模のアリーナ

•年間約20興行の著名アーティストやアイドルグループなどのコンサートを開催。近隣市の成人式にも活用

日本証券アナリスト協会による「ディスクロージャー優良企業賞」を初受賞

～「電気・精密機器部門」で第1位～

ディスクロージャー
2026年度 優良企業

Disclosure

公益社団法人
SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

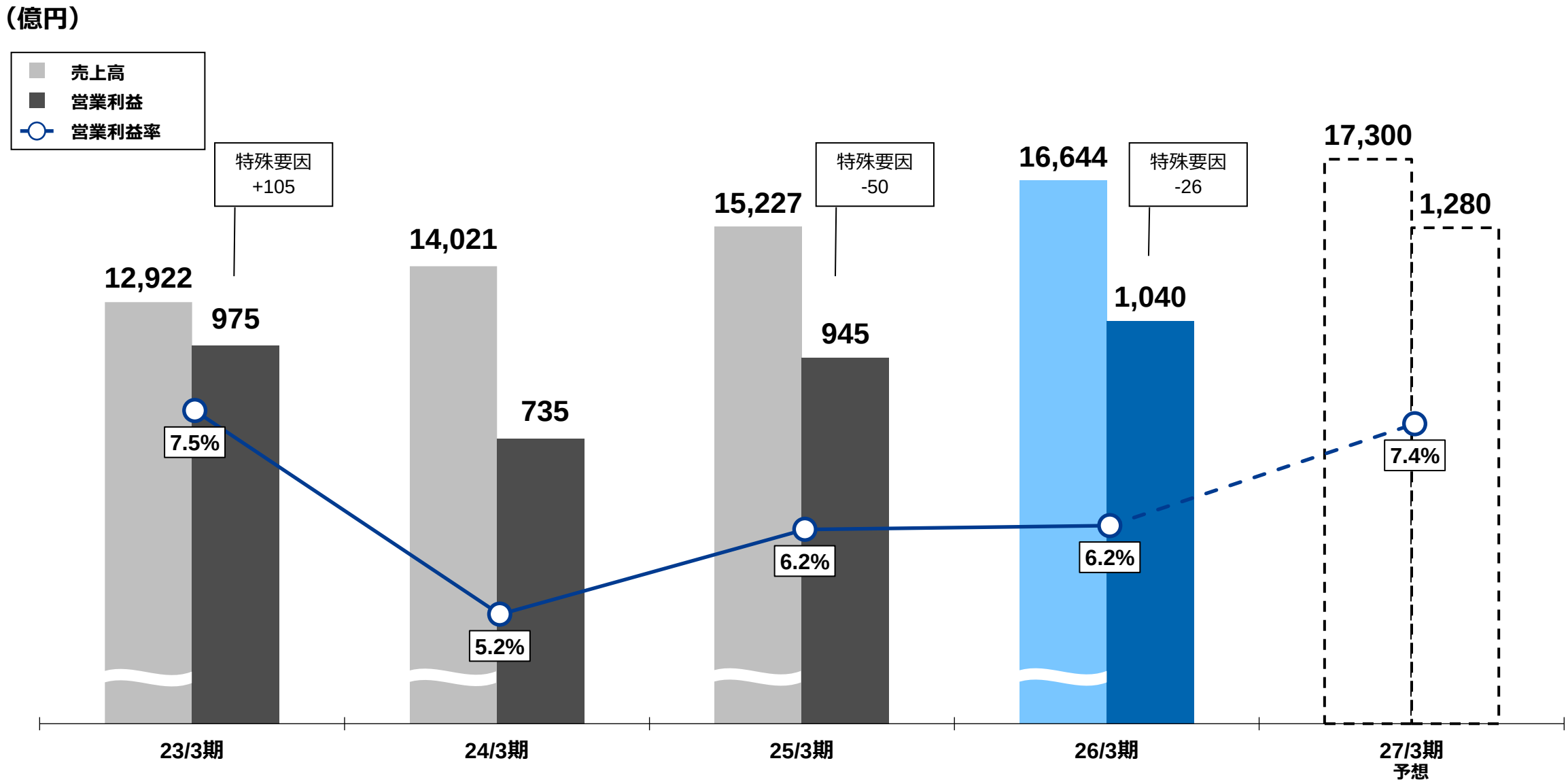
今後もIR活動において、適時適切かつ公平で透明性の高い情報開示を通じて、
さらなる企業価値向上と信頼関係の構築に努めてまいります。

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計･開発、製造･販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。
本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段･方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製･変更･転載･転送等を行わないようお願いいたします。

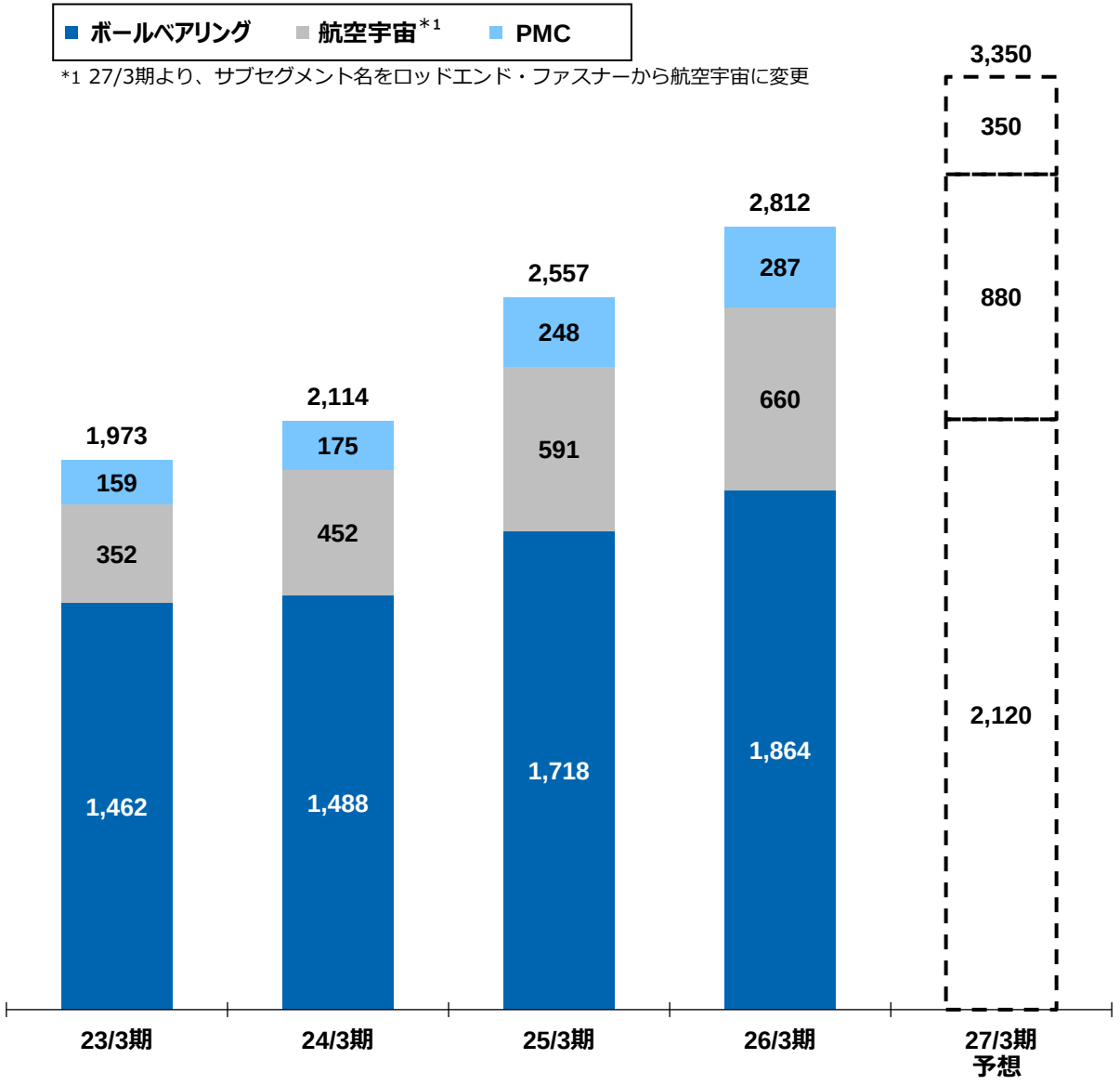
参考資料

売上高、営業利益、営業利益率の年次推移

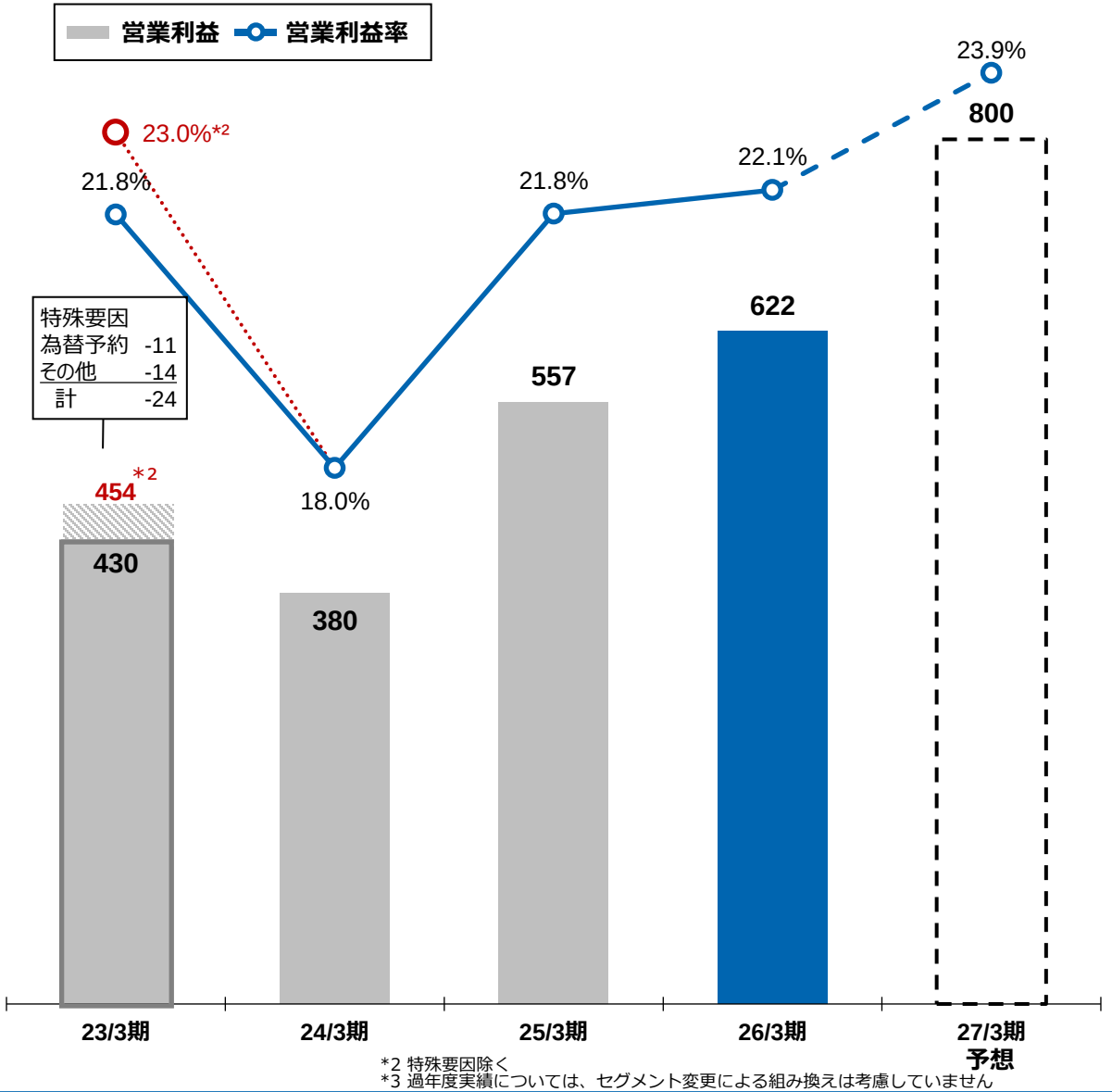


プレシジョンテクノロジーズ セグメント（PT）の年次推移

売上高（億円）



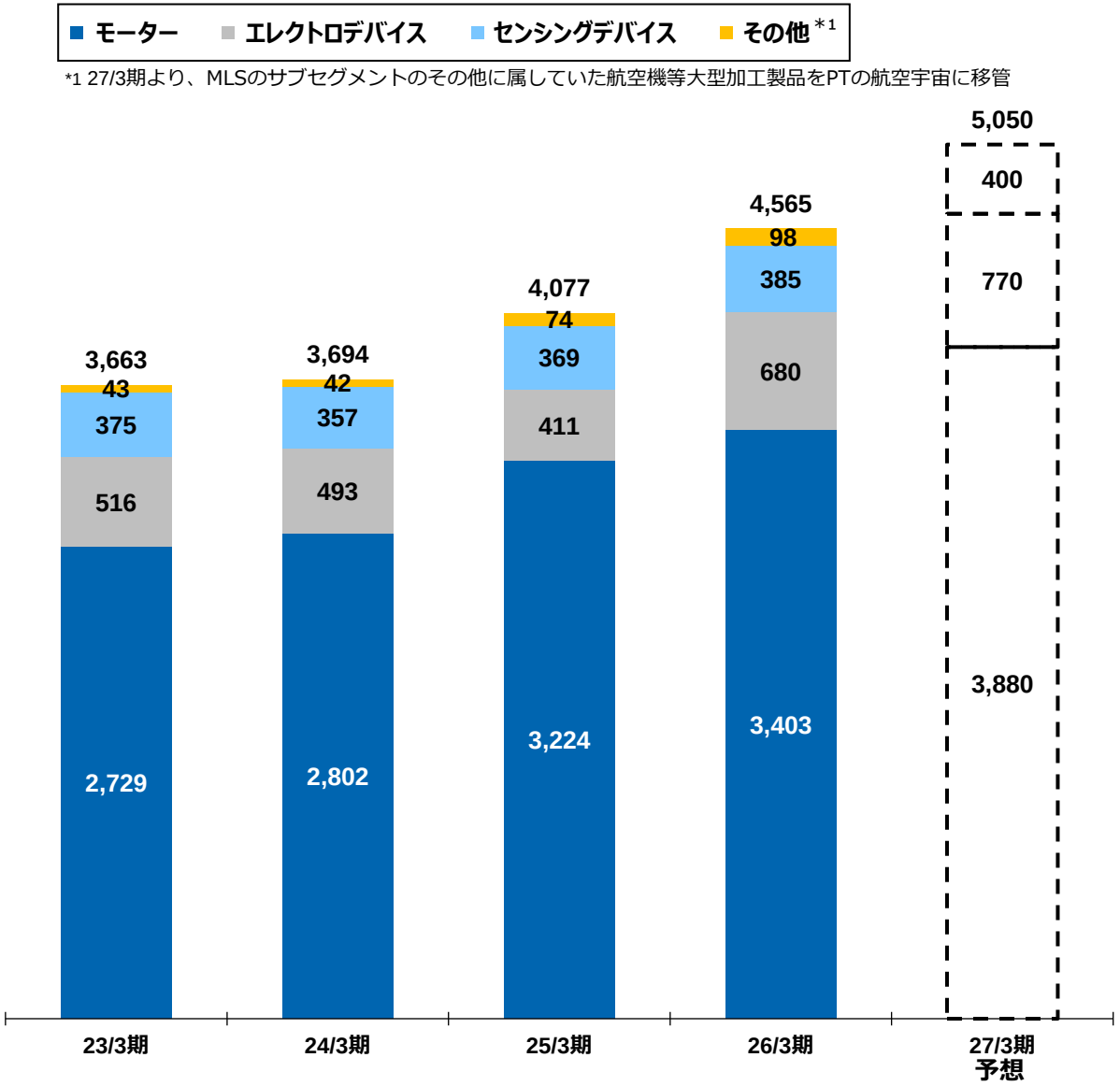
営業利益（億円）



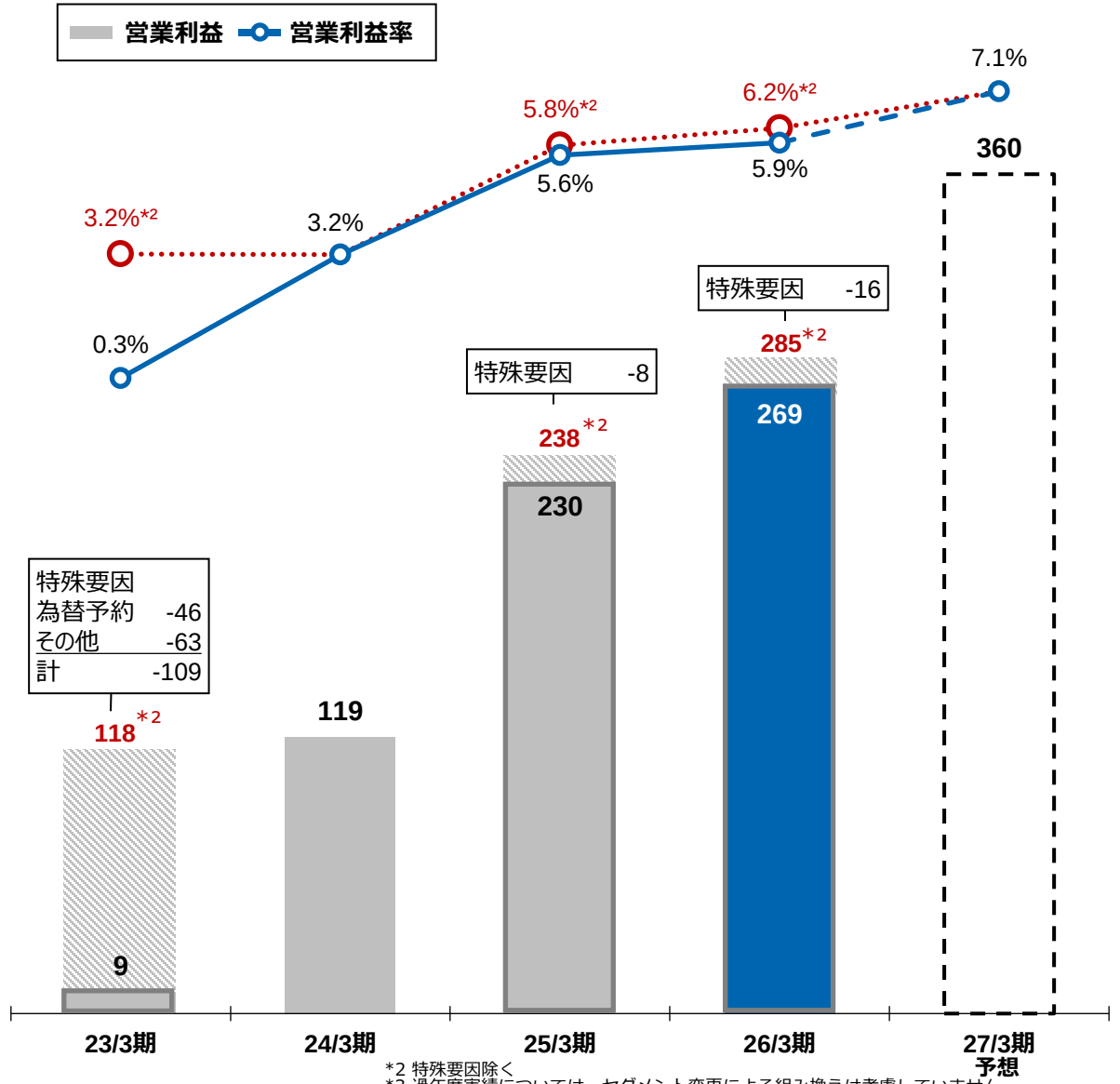
*2 特殊要因除く
*3 過年度実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

モーター・ライティング&センシング セグメント（MLS）の年次推移

売上高（億円）



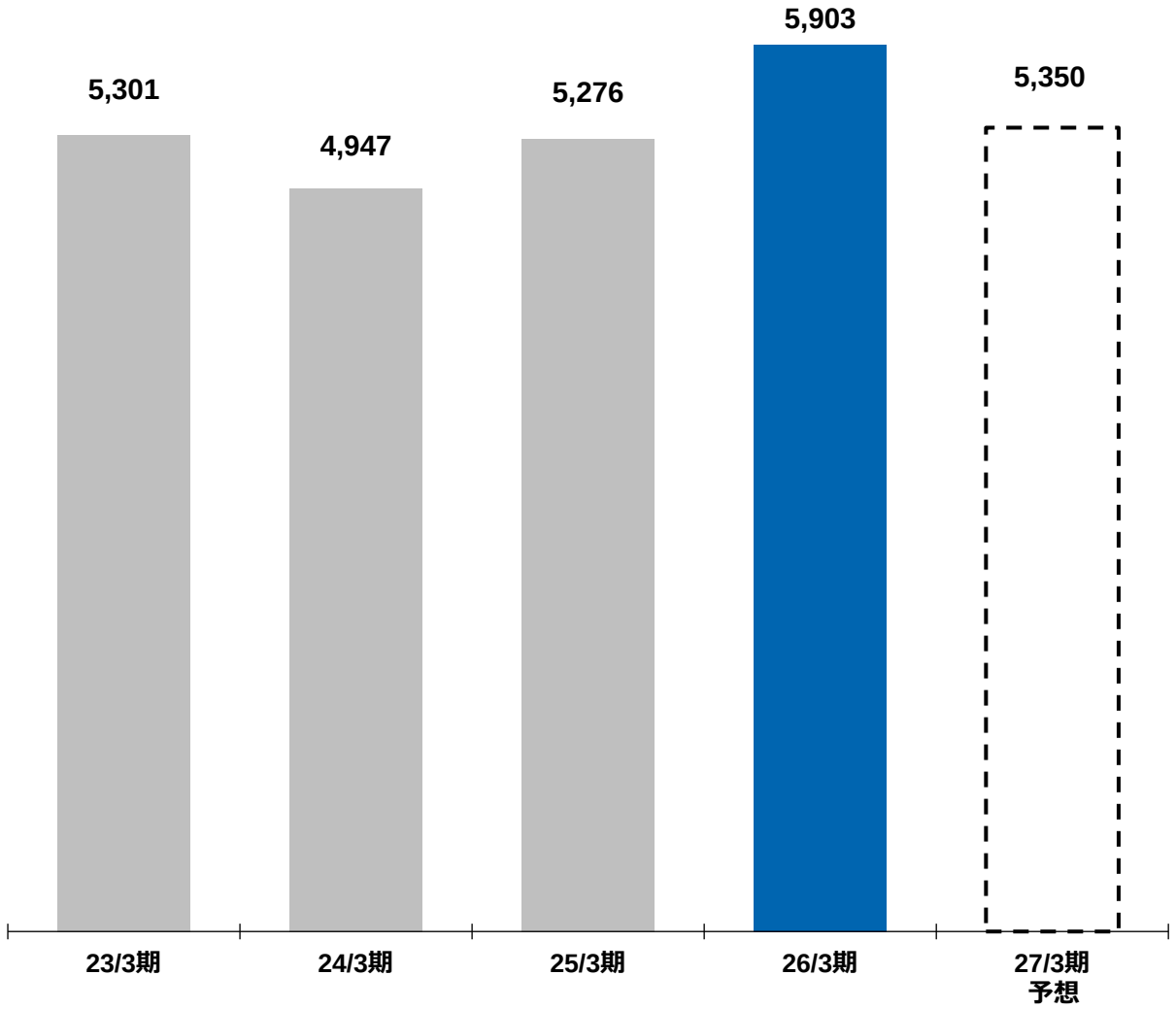
営業利益（億円）



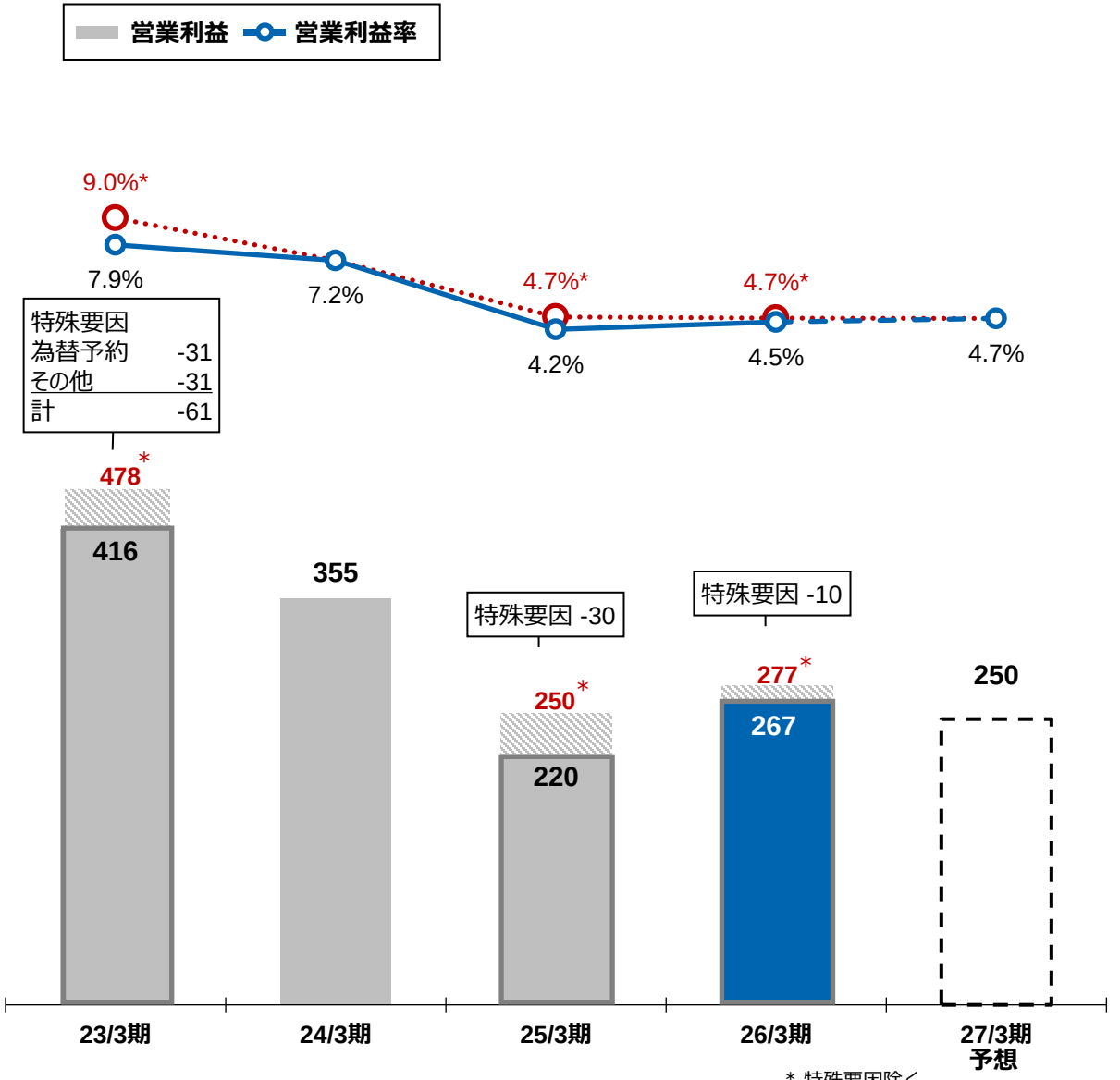
*2 特殊要因除く
*3 過年度実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント（SE）の年次推移

売上高（億円）



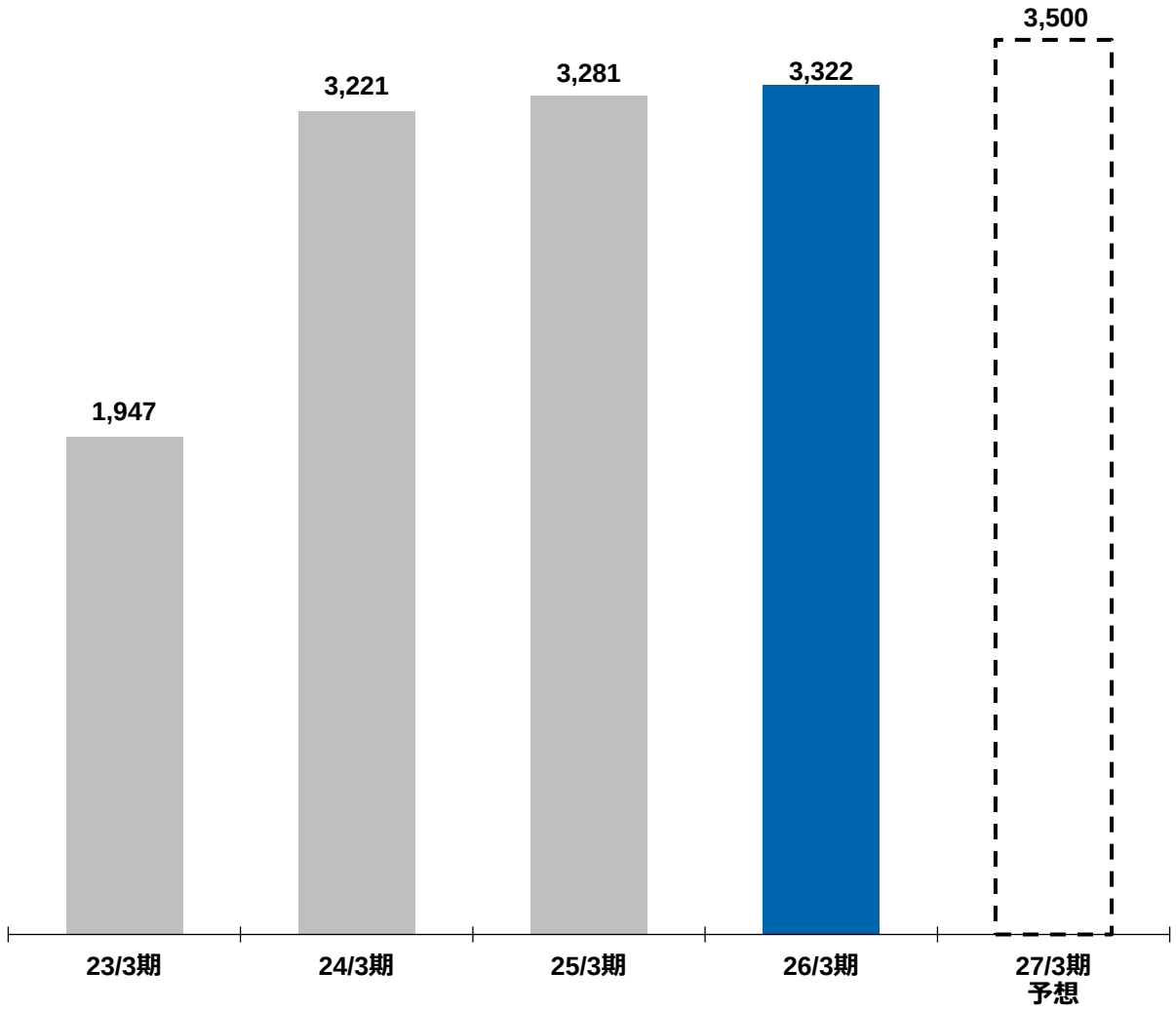
営業利益（億円）



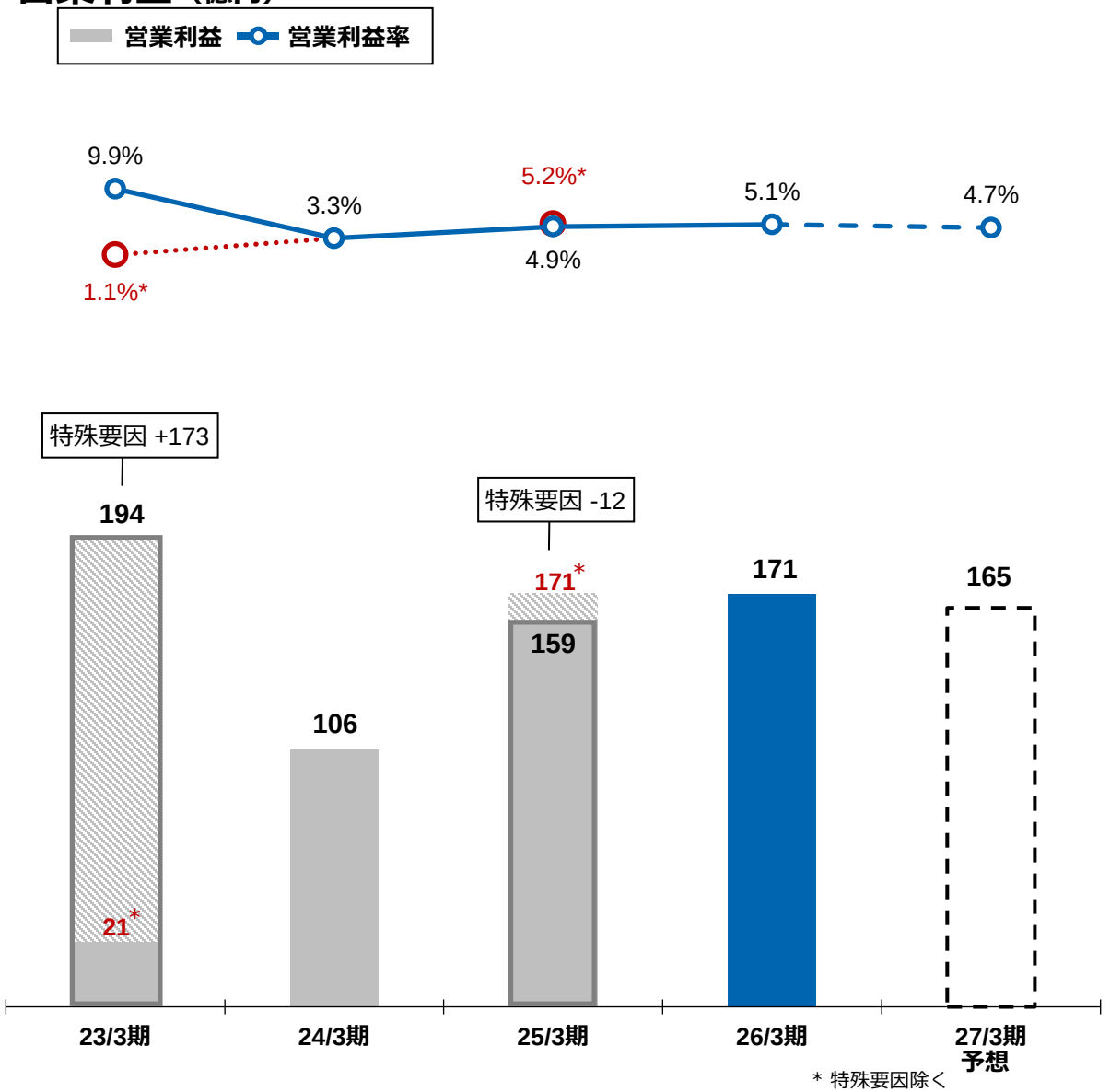
＊ 特殊要因除く

アクセスソリューションズ セグメント（AS）の年次推移

売上高（億円）

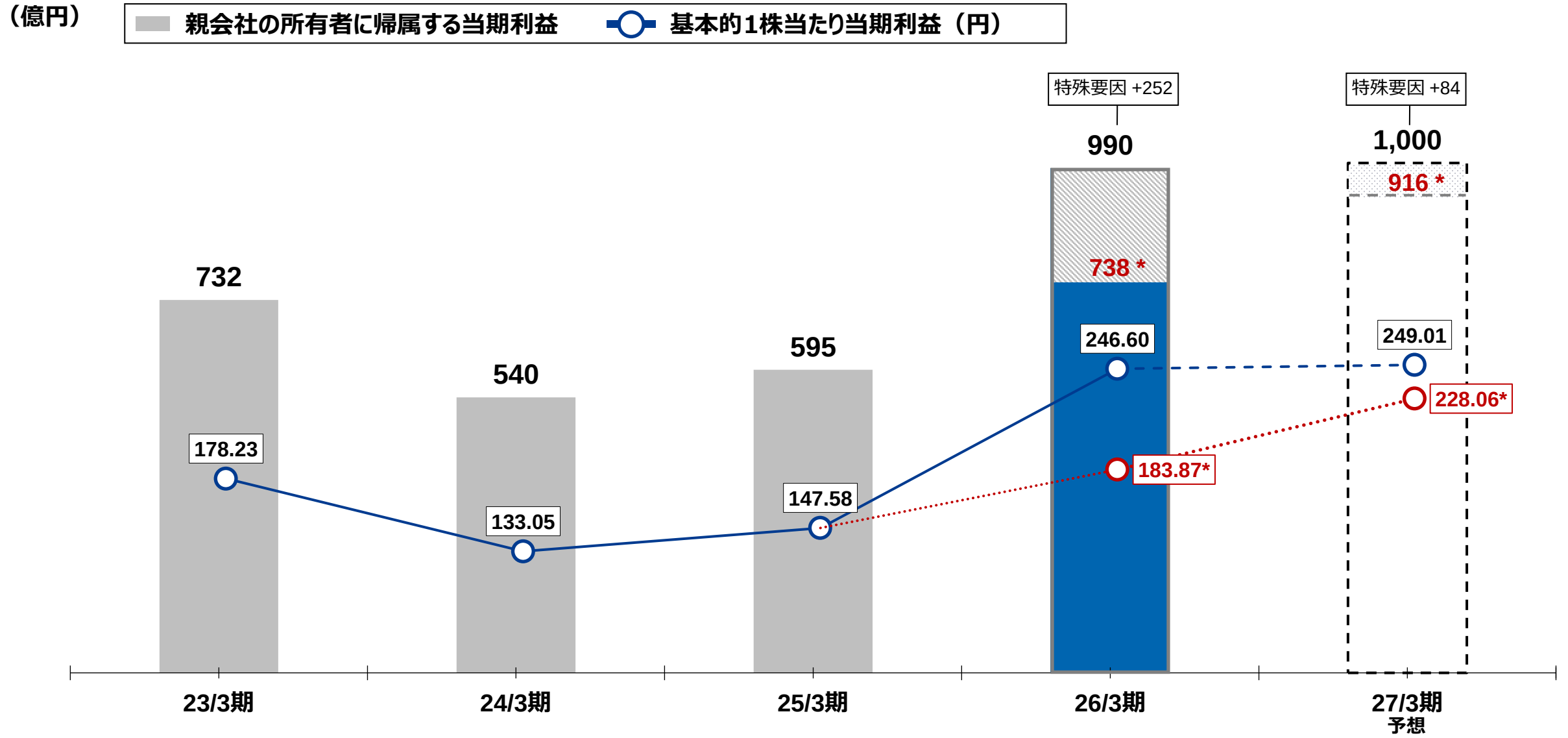


営業利益（億円）



＊ 特殊要因除く

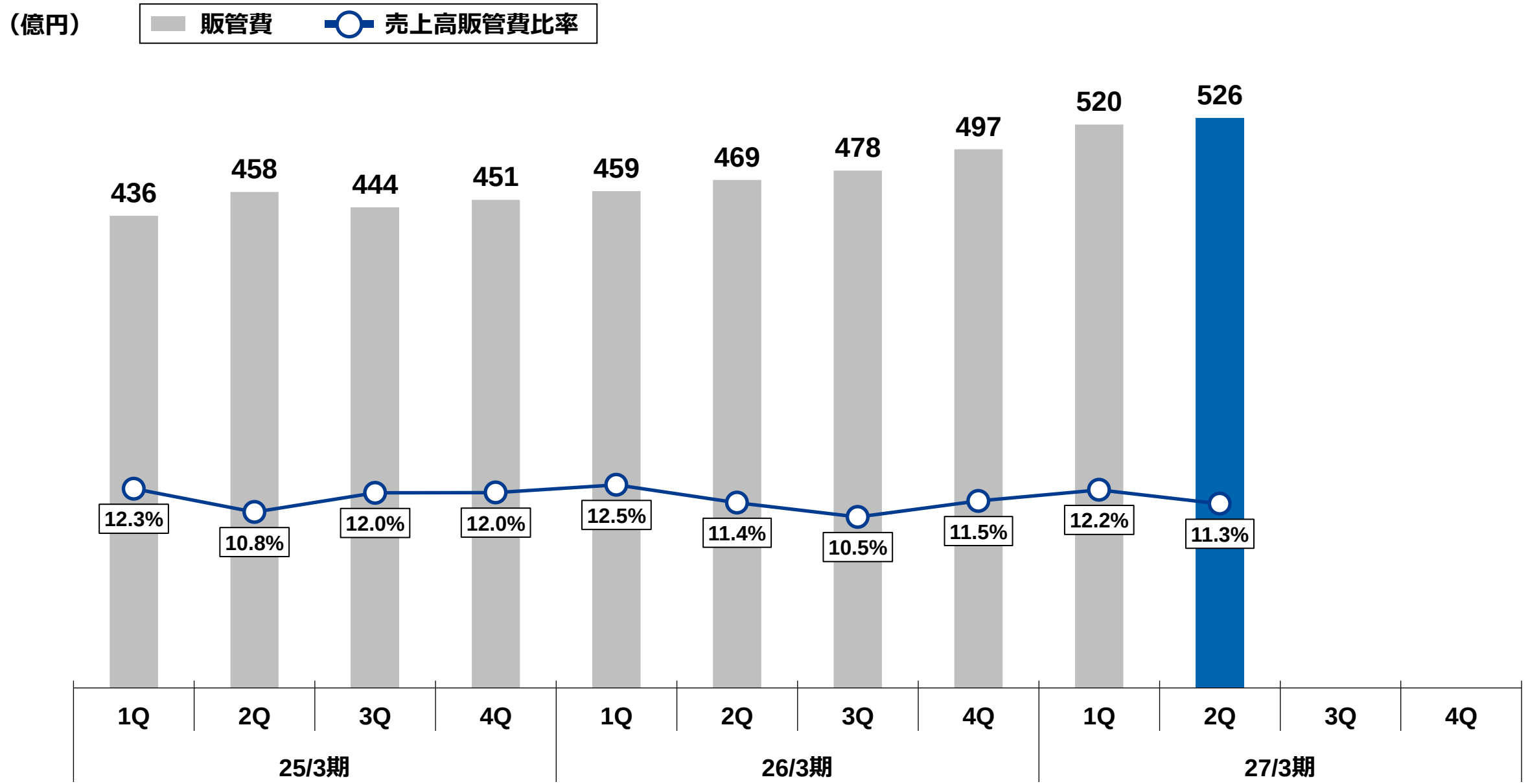
親会社の所有者に帰属する当期利益 / EPSの年次推移



＊ 特殊要因除く

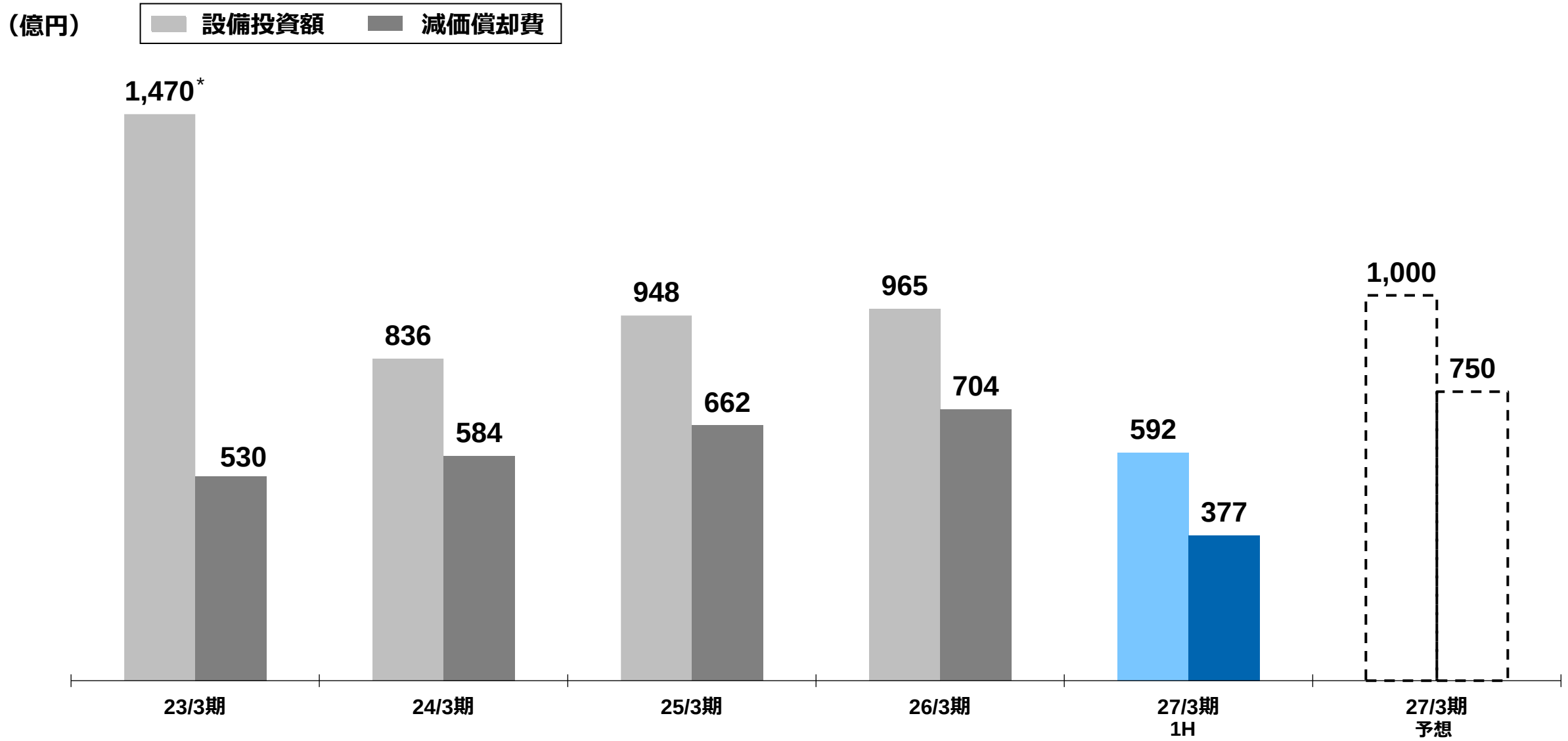
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

販管費の四半期推移



MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

設備投資額、減価償却費の年次推移



* 23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。